

令和6年度卒業論文

日本語依頼表現の使用の実態

広島大学文学部人文学科
日本・中国文学語学コース
日本文学語学専攻
B215585 福田春香

目次

1. はじめに・・・p.3
2. 明らかにしたいこと・・・p.4
3. 関連研究・・・p.4
 - 3.1 ポライトネス理論・・・p.4
 - 3.2 依頼表現・・・p.7
 - 3.3 婉曲的表現（許可求め表現）・・・p.10
 - 3.3.1 「丁寧」と「回りくどさ」に関する研究・・・p.11
4. 調査・・・p.12
 - 4.1 予備調査・・・p.12
 - 4.2 本調査・・・p.13
5. 仮説・・・p.15
6. 調査結果・・・p.17
 - 6.1.1 〈調査1〉 全体の傾向・・・p.17
 - 6.1.2 〈調査1〉 世代別傾向・・・p.25
 - 6.2.1 〈調査2〉 全体の傾向・・・p.29
 - 6.2.2 〈調査2〉 世代別傾向・・・p.32
7. 考察・・・p.34
 - 7.1 心的距離と依頼表現の使用について・・・p.34
 - 7.2 世代差について・・・p.43
 - 7.3 婉曲的依頼表現について・・・p.44
 - 7.4 「依頼」という行為について・・・p.45
8. 今後の課題・・・p.46
9. おわりに・・・p.47
10. 追加資料「調査項目」・・・p.50
 - 10.1 予備調査・・・p.50
 - 10.2 本調査・・・p.53

1. はじめに

近年バイト敬語や若者言葉に代表されるように、時代の変化とともに言語活動に様々な変化が生じていることが指摘されている。筆者自身アルバイト時の接客や日常会話の中で、私たちの言葉遣いは他の世代の人々と違うのかもしれないと感じることがあった。また、友達や後輩・先輩と会話をする際に、社会的な立場が同じ相手であっても相手との関係性により言葉遣いを無意識的に変えていることがあることに気が付いた。これらのことから対人コミュニケーションに興味を抱き、特に世代間による言語活動の違いや、話し手と聞き手の関係性と言葉遣いの関連に関する研究を行いたいと考えようになった。

言語活動の一つである「依頼」には様々なバリエーションが存在する。その中には、「～してほしい」と直接依頼するのではなく「～してもらってもいい?」「重たいなあ（持ってほしい）」のように遠回しに依頼する表現も含まれ、近年これらの表現に関する研究が盛んに行われている。このような婉曲的な依頼表現は、ポライトネス理論¹に基づくと、相手との心的距離を保とうとする「ネガティブ・ポライトネス・ストラテジー」に分類され、先行研究の中に丁寧な表現だと評価する研究と、持って回った不快な表現だと述べる研究が存在する。先行研究では、このような印象の違いには世代差や依頼内容の負担度が関係しているのではないかとということが指摘されているが、私はここに、話し手と聞き手の関係性も関係しているのではないかと考える。これまで、依頼表現の使い分けや婉曲的表現への印象に関して、先輩、後輩、上司といった社会的な立場の観点から調査を行っている先行研究はいくつかみられるが、心的距離に焦点を当てた研究は数少ないように感じたため、卒業論文では心的距離と依頼表現に関する研究を行おうと考えた。

以上のことから、本研究では話し手と聞き手の心的距離に着目して、「心的距離は依頼表現の選択にどのような影響を与えているのか」ということと、「依頼表現の使用や婉曲的表現に対する印象に世代間の差はみられるのか」ということについて研究を行う。

なお、本研究では、依頼内容の負担度による依頼表現の使い分けについて研究を行っている高村（2014）の調査の行い方や分析方法を参考に研究を行った。

¹「ポライトネス理論」とは、1987年に言語人類学者の Brown, P. and Levinson, S.（以下 B&L）により提唱された理論であり、宇佐美（2022:10）で定義されているように「円滑な人間関係を確立・維持するための言語的ストラテジー」である。また、滝浦（2005:ix）で「端的に对人的な〈距離〉の理論」と述べられているように人と人の距離に関する理論でもある。人には誰しも侵害されたくない自分の範囲（フェイス）がありそのフェイスを侵害するか尊重するかを「ネガティブ・ポライトネス」「ポジティブ・ポライトネス」と言い、それぞれに該当する言動を「ストラテジー」として分類している。本研究は、人と人との心的距離という側面から依頼表現の使い分けを調査していくため、〈距離〉に関する「ポライトネス理論」を参考にした。

2. 明らかにしたいこと

本研究で明らかにしたいことは以下の3点である。

- ①話し手と聞き手の心的距離が依頼表現の選択にどのような影響を与えているのか明らかにする
- ②「直接的な依頼表現」と「婉曲的な依頼表現」を使用された際に感じる印象の違いを明らかにして、婉曲的表現の使用が許容される相手の範囲を明らかにする
- ③世代により、依頼表現の使用や婉曲的依頼表現に対する印象に違いがあるのかどうか明らかにする

3. 関連研究

本研究を実施するにあたって、「ポライトネス理論」、「依頼表現」、「婉曲的依頼表現」に関する先行研究を参考にした。以下にその詳細を述べる。

3.1 ポライトネス理論

初めに、対人コミュニケーションと心的距離²の関係性を考えるうえで欠かせない「ポライトネス理論」という概念について整理する。「ポライトネス理論」に関しては、蒲谷ほか(2002)や、吉岡(2004)、滝浦(2005)、森山(2010)などで研究が行われまとめられている。

まず、「はじめに」の脚注でも触れた、「ポライトネス・ストラテジー」や「フェイス」という用語の確認としては、吉岡や滝浦で述べられている以下の部分を参考にした。

(ポジティブ・ポライトネスとは) 他者から理解され、共感され、称賛されたいという欲求であるポジティブ・フェイスを満たすよう配慮して、相手との心理的距離を縮めることであり、(ネガティブ・ポライトネスとは) 他者に立ち入れたくない、邪魔されたくない欲求であるネガティブ・フェイスを脅かさないよう配慮して、相手との心理的距離を保つことである 吉岡 (2004:93) (一部筆者による加筆あり・傍線は筆者による)

「踏み込まれたくない」「邪魔されたくない」という否定形で規定されるネガティブ・フェイスとは要するに「自己決定」に対する欲求であり、他方、「よく思われたい」「受け入れられたい」というポジティブ・フェイスは「肯定的自己像」に対する欲求である。(中略)「フェイス侵害行為 (face-threatening act [FTA])」によって欲求が満たされずフェイスが脅かされる可能性があるとき、ポライトネスは、そのフェイスの侵害を補償・軽減 (redress) したり回避したりすることでフェイスを保持するべく機能する。ネガティブ/ポジティブ・フェイスのどちらを顧慮するかによって、ポライトネスもネガティブ/ポジテ

² 本研究における「心的距離」とは、福岡 (2014) を参照し、「上下関係」ではなく「相手との親密さの度合い」を指すと定義する。

ィブの二種類に分けられる。前者は「忌避的」な「“表敬”のポライトネス」であり、後者は「接近的」な「“連帯”のポライトネス」である 滝浦 (2005:136) (傍線は筆者による)

即ちコミュニケーションにおいて、相手との距離を近づけたいという思いからとる言動のことを「ポジティブ・ポライトネス」、反対に相手の領域に踏み込まず適度な距離を保ちたいという思いからとる言動のことを「ネガティブ・ポライトネス」という。

また、滝浦(2005:142)は心的距離とポライトネスに関しても言及しており、「〈距離〉の概念としてポライトネスを見れば、ネガティブ・ポライトネスとは距離を大きくすることであり、ポジティブ・ポライトネスとは距離を小さくすることである」と述べている。ここからも、ポライトネスとは距離の概念であることが分かる。

B&L は、このような「ポジティブ・ポライトネス」を満たす「ポジティブ・ポライトネス・ストラテジー」として 15 の項目を、「ネガティブ・ポライトネス」を満たす「ネガティブ・ポライトネス・ストラテジー」として 10 の項目を具体的に提示している。吉岡 (2004:94) を参照して、以下にそれぞれのストラテジーを示す。

【資料1】 ポジティブ・ポライトネス・ストラテジー15の項目

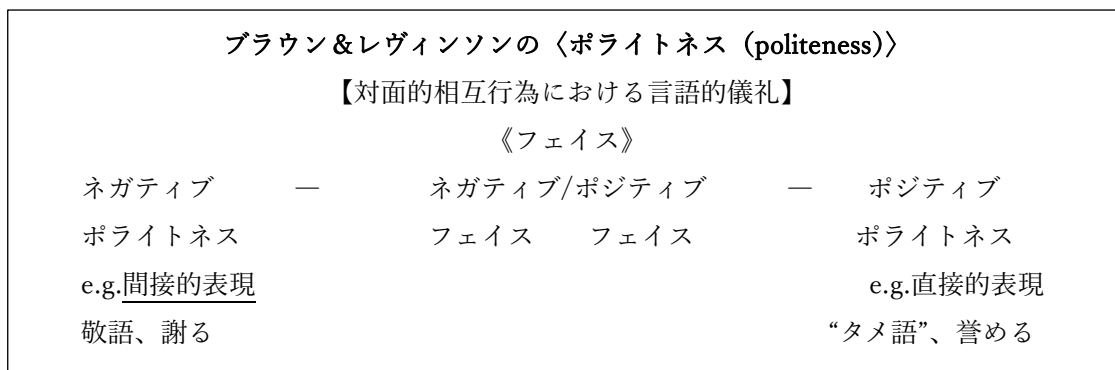
- 1、「聞き手への興味、賛同、共感を強調する」
- 2、「聞き手（の興味、望み、要求、利益）に注目し、耳を傾ける」
- 3、「聞き手への興味を強める」
- 4、「仲間内マーカ―を使う」
- 5、「同意点を探す」
- 6、「不一致を割ける」
- 7、「共感の場を予想し、高め、主張する」
- 8、「冗談を言う」
- 9、「聞き手の要求に関して話し手の知る限りを主張する、または、仮定する」
- 10、「提供する、約束する」
- 11、「楽観的に言う」
- 12、「話し手と聞き手双方を活動に包括する」
- 13、「理由を述べる（または尋ねる）」
- 14、「相互利益を想定する、または主張する」
- 15、「聞き手に贈り物を与える（役に立つこと、共感、理解、協力）」

【資料2】 ネガティブ・ポライトネス・ストラテジー10の項目

- 1、「習慣的な間接表現を使う」
- 2、「疑問文、緩衝的表現を使う」

- 3、「悲観的に言う」
- 4、「負担を軽減する」
- 5、「敬意を表す」
- 6、「謝罪する」
- 7、「話しても聞き手も非人格化する:代名詞 I と you を避ける」
- 8、「FTA である事柄を一般的なルールとして述べる」
- 9、「名詞化する」
- 10、「借りを作ることになる、または、聞き手に負うところがあるとはっきり言う」

また、滝浦(2005:135)は「ポライトネス理論」を以下のように図式化している。



【図 1】 滝浦による B&L のポライトネス理論 転載 (傍線は筆者による)

これらの先行研究から、本研究で焦点を当てて分析を行う「間接的表現」は、相手との距離を保とうとする「ネガティブ・ポライトネス・ストラテジー」であることが分かる。

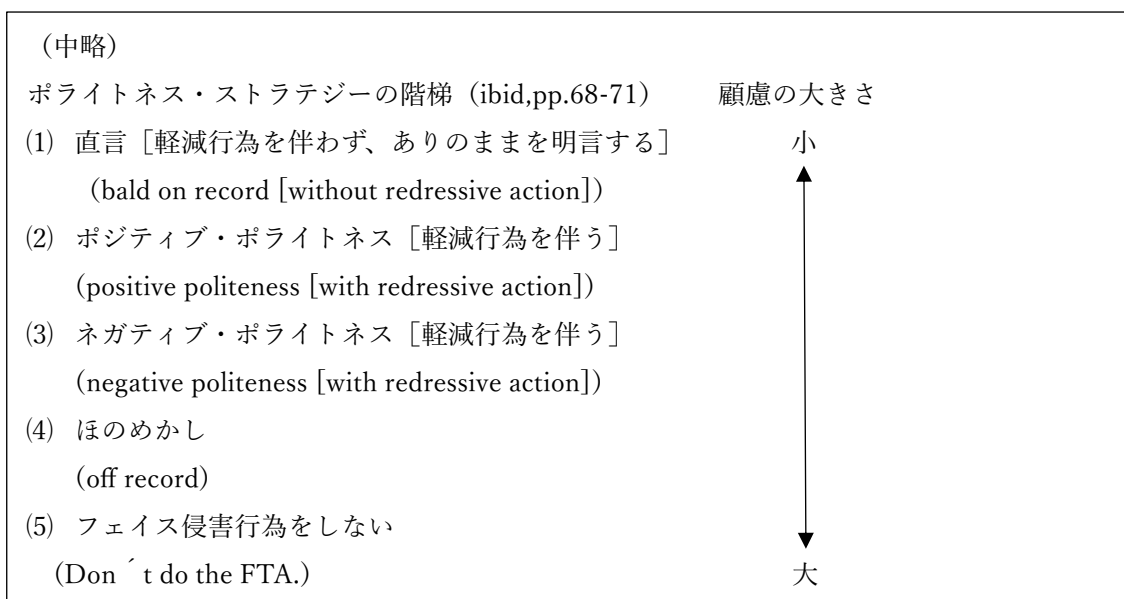
また、【資料 2】の「10、借りを作ることになる」の中には本研究で焦点を当てる「依頼」も含まれていると考えられ、「依頼」の場面に関して滝浦(2005: 151-154)の中で以下のようにまとめられている。

(前略)

- (1) 「ペン、借りるよ。」
- (2) 「あ、かわいいペンだね。貸してくれる？」
- (3) 「すごく申し訳ないんだけど、もしあったらペン貸してもらえない？」
- (4) 「(独り言のように) あ、しまった、ペン忘れてきちゃったな。」

(中略)

いまの例文においては、(1)よりも(2)、(2)よりも(3)の順で、相手のフェイスに対するより大きな顧慮が表現されている。(中略) それらは、ブラウン&レヴィンソンの掲げる次の階梯 (の(1)~(4)まで) にそのまま対応することになる。



【図2】 滝浦によるフェイス侵害度とポライトネスの階梯 転載

ここから、直接的な依頼表現よりも、相手への興味を示す発言をしたり間接的な表現を使用したりする方が相手への顧慮の大きさが大きくなることが分かる。間接的、またはほのめかしながら依頼をする方が相手への気遣いをしていると人々が感じやすいことが分かる。

本研究において、「婉曲的依頼表現」の使用に対して人々がどのような印象を受けるのか調査を行うことでこの理論が正しいのかどうか明らかにできるのではないかと考えられるため、注意深く調査を行った。

3.2 依頼表現³

本研究では、言語活動の中でも「依頼表現」に焦点を当てた研究を行う。そのためここでは、授受表現に関する研究や、依頼内容の負担度や性別、年代別からみた依頼表現の使用実態に関する先行研究を整理する。

まず、辻岡 (2019:548) が、アンケート調査を基に日本語の行為要求表現を整理していたためこの分類を参考にした【表1】。分類表によると、依頼表現は、大きく「活用形類」「命令類」「疑問類」「許可求め類」、「クレル系/モラウ系」「肯定/否定」の要素に分類できることが分かる。

³本研究における「依頼表現」とは、辻岡 (2021:245) を参照し、「[相手]に行動を促すもので、決定権は「相手」にあり、利益が「自分」に生じる「行動展開表現」であると定義する。

【表1】 辻岡による依頼表現の分類表 転載

待遇形式の 組み合わせ	行為要求表現	類別
(Ⅰ)非敬語 形・普通体	しろ	活用形類 (命令形)
	して	活用語類 (テ形)
	してくれ	クレル系命令形 (クレ形)
	してくれる?	クレル系肯定疑問類
	してくれない?	クレル系否定疑問類
	してもらえる?	モラウ系肯定疑問類
	してもらえない?	モラウ系否定疑問類
	してもらって (も) いい?	モラウ系許可求め類
(Ⅱ)非敬語 形・丁寧体	してくれますか	クレル系肯定疑問類
	してくれませんか	クレル系否定疑問類
	してもらえますか	モラウ系肯定疑問類
	してもらえませんか	モラウ系否定疑問類
	してもらって (も) いいですか	モラウ系許可求め類
(Ⅲ)敬語 形・丁寧体	してください	クレル系命令形 (クダサイ形)
	くださいますか	クレル系肯定疑問類
	くださいませんか	クレル系否定疑問類
	していただけますか	モラウ系肯定疑問類
	していただけませんか	モラウ系否定疑問類
	していただいて (も) いいですか	モラウ系許可求め類

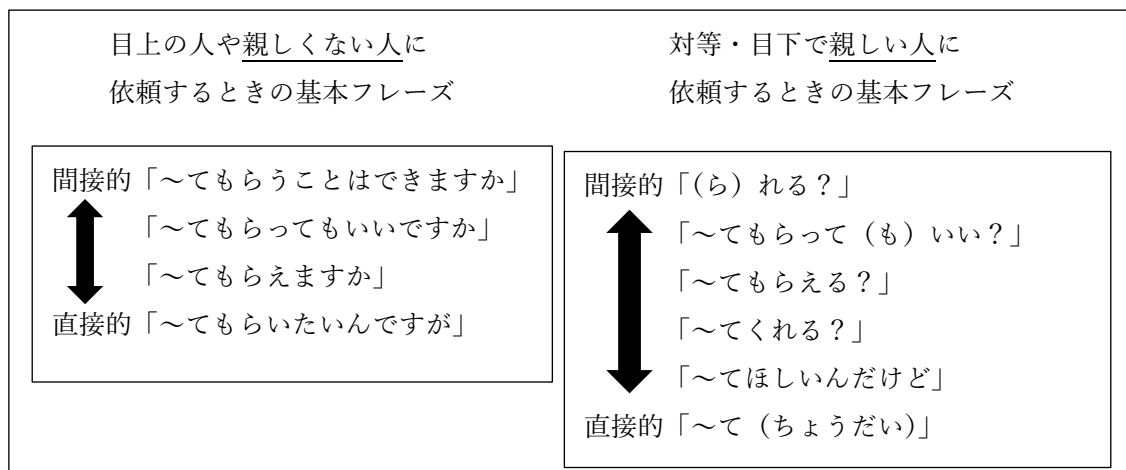
依頼場面における授受表現や依頼表現の使い分けに関しては、金 (2000) や蒲谷 (2007)、清水 (2013) で言及されている。

まず、授受補助動詞「～てくれる/くださる」と「～てもらう/いただく」の使い分けについて年代別や性別の観点から調査を行った金 (2000) によると、家族、中学生、友人に対しては「くれる型」が多く使用され、先輩や先生に対しては「もらう型」の敬体である「いただく型」が最も多く使用される傾向がみられる。年代別では、18~22 歳の若年層は他の世代に比べると敬体の「いただく型」の使用比率が非常に低くて常体の「もらう型」と「くれる型」の使用比率が高いことや、53~66 歳の高年層は敬体の「くださる型」の使用比率がかなり高いことが明らかとなっている。

また、行動展開表現 (依頼表現) を「丁寧さ」の原理から分析した蒲谷 (2007) は、依頼表現の典型は「書いてくれますか」のような「シテクレマスカ」と述べ、「シテ

モラエマスカ」は「シテクレマスカ」に比べると「自分に」「～してもらえるか」ということを尋ねていることになるため、依頼の形式（かたち）から見た際により「丁寧さ」の原理に即した表現であると結論づけられている。

さらに、清水(2013:21,22)は、相手との関係性や直接的表現/間接的表現という観点から依頼表現を段階的に分類している。



【図3】 清水による依頼表現の段階的な分類 転載（傍線は筆者による）

これらの先行研究から、「くれる型」よりも丁寧な「もらう型」は、先輩や先生のような目上・疎の関係にある相手に使用されることが多いことや、「親しくない人」「親しい人」で依頼表現が使い分けられていることが分かる。その使い分けの中にも「間接的」「直接的」な表現があり、「間接的」になるにつれて遠回しな表現になっていることが分かる。

先行研究で、話し手と聞き手の関係性による依頼表現の使い分けにはある程度の傾向がみられることが確認できたため、本研究ではさらに踏み込んで、【図3】の分類表の「親しくない人」「親しい人」という範囲を「心的距離」によってより細かく設定し、直接的な依頼表現と婉曲的な依頼表現の使い分けや印象をより詳細に明らかにしていく。

また本研究は、「はじめに」でも述べたように、依頼内容の負担度や性別による依頼表現の特徴について研究を行った高村(2014)の調査方法や分析の視点を最も参考にして行った。調査の実施方法や分析の仕方が分かりやすく、調査の内容も本研究と観点が異なるだけでありその調査方法や考察の視点は参考になると考えたためである。高村の研究では、依頼の負担度が異なる8つの依頼場面を設定し、大学生に対してどのように依頼を行うかアンケート調査を行っている。そして、依頼内容の負担度と話し手の性別により依頼表現にどのような違いが現れるか、①「～もらう」「～くれる」という2つの表現の違い、②「もらえない/くれない」などの否定型と「もらえる/くれる」などの肯定型の違い、③「もらえたりしない/くれると嬉しいんだけど」といった婉曲的な表現と「もらえる/ください」といったより直接的な表現との違いの3つの視点に基づいて分析している。結果としては、依頼内容の負担度が大きい方が「もらう型」「否定型」「婉曲的依頼表現」の使用が増加し、

負担度が大きいほどより相手を配慮した表現を使用しやすいことを明らかとしている。また、男性の方が女性よりも「くれる型」「否定型」「直接的依頼表現」の使用が増加することを明らかにしている。

本研究で明らかにしたいと考えている、「話し手と聞き手との関係性による依頼表現の使い分け」という調査や、高村が論文の終わりで今後の課題として挙げている「年代差」に焦点を当てた分析を行うことで、高村の研究の補完を行えるのではないかと考えた。

以上の先行研究を参考に、本研究における依頼表現の調査では、「くれる/もらう」「否定型/肯定型」、「直接的依頼表現/婉曲的依頼表現」の使い分けに着目して分析を行いたいと考える。これに付け加えて、「ちょっと」や「すみません」といった前置きや依頼の理由が付属するかどうかということも相手に対する配慮の表れになっているのではないかと考えるため、「前置き・理由の付属」も調査の視点に取り入れ、4点から分析を行う。

3.3 婉曲的表現（許可求め表現）

「はじめに」でも述べた通り、近年「依頼表現」の中でも「～してもらってもいいですか」に代表される「許可求め表現」に関する研究が増加傾向にある。本研究においても、これらの婉曲的表現の使用実態や使用の許容度に関して調査を行うため、先行研究で論じられていることを整理する。

まず、「許可求め表現」とはどのような表現のことなのか確認していく。3.2 で掲示した【表1】において、「してもらって（も）いい」という表現が「許可求め類」として分類されているが、辻岡(2019:69)は、「授受動詞「もらう」「いただく」に「(して) もいい (ですか)」という許可求め表現が接続した表現で、実際に依頼を遂行するのは相手であるため、依頼表現として機能している」と説明している。また、ポライトネス理論に基づいて「許可求め表現」を「丁寧」だと評価した川口・蒲谷・坂本(2002:25)において、「ある実質的な意図を表す典型的表現（この場合、「申し出」を表す「～(し)ましようか」)を、他の意図を表す典型的表現（この場合、「許可求め」を表す「～(し)てもいいですか」)に置き換えて表現すること」だと定義されている。

これらの先行研究から、「～してもらってもいいですか」という依頼表現は、「～してもらえ(いただけ)ますか」という従来の依頼表現に「～してもらってもいいですか」というあたかも許可を求めているかのような表現が接続されることで、相手に行方を遠回しに依頼している婉曲的な依頼表現であることが分かる。

続いて、「許可求め表現」の使用に関して、世代差やどのような相手に使用されるのかという実態調査を行った先行研究としては、尾崎(2015)や先述の辻岡(2019)が挙げられる。

尾崎は、3つの調査を基に、年齢や性別により「～してもらっていい」という依頼表現の使用傾向に違いが見られるかどうか考察を行っている。そこでは、「許可求め表現」は調査を行った1972年以降に使われ始め(それまでは使われることがなく)、2008年の調査では

ある程度浸透していることや、若年層になるほど使用比率が高くなる傾向があることを明らかとしている。また、「知らない人」に対しては使用が多く見られる一方で、「家族」のような非常に近い身内に対してはあまり使用されない傾向があることを明らかとしている。

辻岡は、2015年に10~20代の若年層と50代以上の高年層合計180名に対してアンケート調査を行い、使用傾向を明らかにしている。調査では、「ペンを借りる」（負担度・小）、「日程変更」（負担度・大）という依頼の負担度が異なる2つの依頼場面を設定し、親しい同年代、親しい目上、初対面の同年代、初対面の目上に対してどのように依頼するかを「モラウ系許可求め類」の視点から分析している。この調査から、「許可求め表現」は、負担度が大きい依頼をする際などの相手に対して配慮が必要な場面で使用されやすい傾向があることや、若年層では親しい目上や同年代という待遇表現の選択基準が揺れやすい相手に対して使用されやすい傾向があることが明らかとなった。また、若年層と高年層により許可求め表現を使用する範囲に違いが見られたため、ここに高年層が「許可求め表現」の使用に違和感をもつ理由があるのではないかと述べている。

以上の先行研究から、「～してもらっていい」のような「許可求め表現」は2000年代前後ごろから社会に普及した比較的新しい表現であり、距離の遠い人に依頼する場合や負担度の大きい行為を依頼する場合といった、相手への配慮が必要な場面で使用されやすい表現であると考えられる。そして、比較的若い世代での使用比率が高く、表現を使用をする相手の範囲や使用を許容できる相手の範囲には世代差があるのではないかとということが考えられる。

3.3.1 「丁寧」と「回りくどさ」に関する研究

「許可求め表現」に関しては、「丁寧」な表現だと評価される一方で、「回りくどい」不快な表現だという評価もされているため、両側面について論じられている先行研究を整理していく。

まず、「丁寧」だと論ずる研究としては、主に蒲谷（2007）が挙げられる。「行動展開表現」における「丁寧さ」の原理から「許可求め表現」を分析した蒲谷(2007:37)は、「許可求め表現」は「〈行動展開表現〉における「丁寧さ」の原理」に即した表現だということができる」と述べ、ここで言う「丁寧さ」について以下のような構造でまとめられている。

「行動」＝「自分」、「決定権」＝「相手」、「利益・恩恵」＝「自分」
という構造を持つ表現が最も「丁寧」なものであり、

「行動」＝「相手」、「決定権」＝「自分」、「利益・恩恵」＝「相手」
という構造を持つ表現が最も「丁寧」ではないものとなる。 蒲谷（2007:38）

この構造に基づき、「許可求め表現」は、本来の意図が「指示」であってもそれをあたかも依頼であるかのように表現する、つまり「決定権」を「相手」にすることで、より「丁寧」な言い方に代えているのだと主張している。

一方で、「許可求め表現」は、特に 2000 年以降に気になる日本語として様々な研究で研究対象として取り上げられ始め、曖昧さや回りくどさの点からあまり評判のいい表現だとは言えないことが指摘されている。「回りくどさ」に関する先行研究としては、文化庁の調査(2008)などが挙げられる。

文化庁は2008年に「気になる言い方」のアンケート調査を実施し、上司が部下に書類の郵送を頼む時と、友達に本を貸してもらう時の依頼場面における許可求め表現の使用が気になるかどうかを調査している。その中で以下のように述べており、この表現が回りくどい表現だということが確認できる。

本来なら「郵送してください。」「貸してちょうだい。」といった依頼や指示の表現で済むところを、許可を求める表現に変えていることになり、その分、回りくどい印象を与える場合がある。 文化庁(2008)(傍線は筆者による)

また、年代が上がるにつれて許可求め表現に対する許容度が下降しているが、若年層では許容度が高くなっていることを明らかにしている。

このように、「許可求め型」の依頼表現は、「丁寧」だと言われている一方で「回りくどい」とも言われている、矛盾した印象を与え得る表現である。本研究で、話し手と聞き手の関係性による依頼表現の使い分けや、「許可求め表現」に代表される婉曲的依頼表現の使用実態や印象の世代差を明らかにすることは、これらの研究を発展させるうえで意義のある研究になると考えている。

4. 調査

本研究では、予備調査と本調査を行った。それぞれの調査項目は、本稿の最後に「追加資料「調査項目」」として添付しているのでそちらを参照されたい。

4.1 予備調査

まず、本調査を実施する前に友人や先生など、計 6 名に対して予備調査として Google Forms を利用したアンケート調査を実施した。質問に対する回答の傾向をある程度把握して本調査に生かしたり、質問の内容や質問数の妥当性を判断したりすることを目的として実施した。

予備調査の結果としては、相手との心的距離が遠くなるほど婉曲的依頼表現の使用が増加する傾向がみられた。また、心的距離が遠い相手に対するほど「くれる」よりも「もらう」を使用する傾向がありそうということが分かった。本調査でも調査方法を変えずに

引き続き対象人数を増やして調査を行うことで、より詳細な傾向がはっきり見えるのではないかと考えたため、本調査でも同じ形式で調査を実施することとした。

質問内容の課題としてまず調査1に対しては、初対面の人に対する依頼場面や「バスに乗車中に窓を開けてほしい」という依頼場面の想像がつきにくいという意見が複数寄せられた。そこで、誰でも場面を想像しやすい依頼場面を設定し直した。また、設問2に対しては、選択肢の中の「相手に理解されている」という項目が理解しにくいという意見があったため、選択肢の改善を図った。

調査自体に関しては、質問数が多かたり質問の内容が似ていたりすることから回答者への負担が大きく正しい回答を得られない可能性があるという課題が見つかった。そのため、1つの設問に含まれる質問数を減少させたり、依頼内容のバリエーションを充実させたり、選択肢を減少したりすることで、回答者への負担を可能な限り軽減させた。

4.2 本調査

予備調査を踏まえて質問数や質問の内容に改善を加え、2024年10月17日（木）～25日（金）の期間に、本調査として Google Forms を用いたアンケート調査を実施した。10代6名、20代36名、30代7名、40代6名、50代13名、60代4名、70代2名の合計74名から回答を得た⁴。

調査では「多様な関係性の相手への依頼表現の使い分け」を尋ねる自由記述式調査〈調査1〉と、「直接的依頼表現/婉曲的依頼表現に対する印象」を尋ねる選択肢式調査〈調査2〉、対人関係により表現を変えているのかどうか確認するための意識調査〈調査3〉の、大きく3つの調査を実施した。

〈調査1〉自由記述式アンケート

多様な関係性の相手として「家族」・「友達」・「後輩/部下」・「先輩/上司」・「先生」・「初対面の人」を設定し、それぞれの相手に対してどのような依頼表現を使用するのか、筆者が想定した3つの依頼場面における依頼表現を自由記述で回答してもらった。

得られた回答は、「くれる/もらう」・「肯定型/否定型」・「直接的依頼表現/婉曲的依頼表現」・「前置き・理由の付属の有無」という視点から分析し、相手との関係性により依頼表現がどのように使い分けられているのか、依頼表現の使用実態に世代差はあるのかどうか考察を行った⁵。

⁴ 調査では性別を尋ねたが、今回は性別による表現の使い分けについては分析を行わなかった

⁵ 「～していいですか？」等のように、話し手が行為を行ってもいいか尋ねている回答は、今回の調査対象である「依頼」ではないと判断したため集計に含んでいない

〈調査2〉 選択肢式アンケート

筆者が設定した「直接的な依頼表現」と「婉曲的な依頼表現」を使用された際の印象を選択肢から選択してもらった選択式の印象調査を行った。選択肢の中には、「ポジティブ・ポライトネス」⁶となるものと、「ネガティブ・ポライトネス」⁷となるものを設定し、それぞれの表現に対する印象の違いを明らかにした。

得られた回答は、相手別・世代別に分析し、使用された相手による違いはみられるのか、若年層や高齢層といった世代間に印象の差はみられるのかを考察した。

〈調査2〉の印象調査は、4つの分析の視点の中でも特に焦点を当てたいと考えた「直接的依頼表現/婉曲的依頼表現」に関してのみ調査を行ったが、これは、アンケート調査という調査の方法上、質問数が多くなりすぎると正しい回答を得ることが困難になると考え調査項目を絞ったためである。

〈調査3〉 意識調査⁸

普段のコミュニケーションの中で、「相手との社会的な立場」「相手との関係」により言葉遣いの意識を変えているか尋ねる調査を実施した。

【補足】

※集計の際、以下のような表現を「婉曲的な表現」としてカウントした

「～もらってもいい?」「寒くない?暑くない?」

「～してほしいんだけど」「～してほしいんだけどいい?」「～してほしいなあ」

「～だと嬉しい、助かる」「～してくれないかな」「～してもらえないかな」

「～しない?」「～しようよ」

※本調査において依頼内容が全て同じにはなっていないが、依頼内容の負担度に違いが出ないように依頼内容の負担度が同程度になるように場面設定を工夫した

※〈調査2〉において、「(イ) 遠回しな感じがする」という選択肢は、筆者が婉曲的な表現として設定した設問が本当に婉曲的な表現として捉えられているか確認するためのものであるため、分析の過程で「ポジティブ・ポライトネス」にも「ネガティブ・ポライトネス」にも当てはまらないと判断した

⁶ ポジティブ・ポライトネス：(ア) 心理的な距離が近い・(エ) 丁寧な感じがする

⁷ ネガティブ・ポライトネス：(ウ) 失礼な感じがする・(オ) 心理的な距離が遠い

⁸ 〈調査3〉意識調査は、回答者に相手との心的距離により表現を使い分けようとする意識があるのかどうか尋ねることで、回答の信憑性を確認するために実施したものである。①②共に「いいえ」と回答した人はいなかったため、今回の調査では得られた回答全てを有効回答だと判断した

5. 仮説

本調査では多様な関係性の相手として「家族・友達・後輩/部下・先輩/上司・先生・初対面の人」を設定しているが、先行研究や自身の感覚から、心的距離が近い順に「家族>友達>後輩/部下>先輩/上司>先生>初対面の人」だと仮定して調査を行った。また、後輩と部下、先輩と上司をそれぞれセットで設定した理由は、幅広い年代の人に対してアンケートを行うため、全員が想像しやすい相手にするためである。

ここで今一度、本研究で「明らかにしたいこと」を確認しておく、

①話し手と聞き手の心的距離が依頼表現の選択にどのような影響を与えているのか明らかにする

②「直接的な依頼表現」と「婉曲的な依頼表現」を使用された際に感じる印象の違いを明らかにして、婉曲的表現の使用が許容される相手の範囲を明らかにする

③世代により、依頼表現の使用や婉曲的依頼表現に対する印象に違いがあるのかどうか明らかにする

という3点である。

これに対する仮説として、①に関しては、まず「くれる/もらう」「肯定型/否定型」という視点から考えると、心的距離が遠い相手に対するほどより丁寧な表現を選択しようとするのが先行研究から分かっているため、「もらう」「否定型」の使用比率が高い傾向が見られるのではないかと考えられる。予備調査からもある程度そのような傾向がみられている。

また、「直接的依頼表現/婉曲的依頼表現」という視点から考えると、心的距離が遠い相手に対するほど配慮の意を表すため、「～してもらってもいいですか?」や「～していただくことは可能でしょうか?」という婉曲的な依頼表現の使用率が高いのではないかと考えられる。予備調査でも同様の傾向が見られる。先行研究でも、熊井(2012:17)において、「V テモラッテイイカは(中略)親子や夫婦間の遠慮のいらぬ関係ではそうでない場合に比べれば用いられることは少ないと思われる」と述べられている。

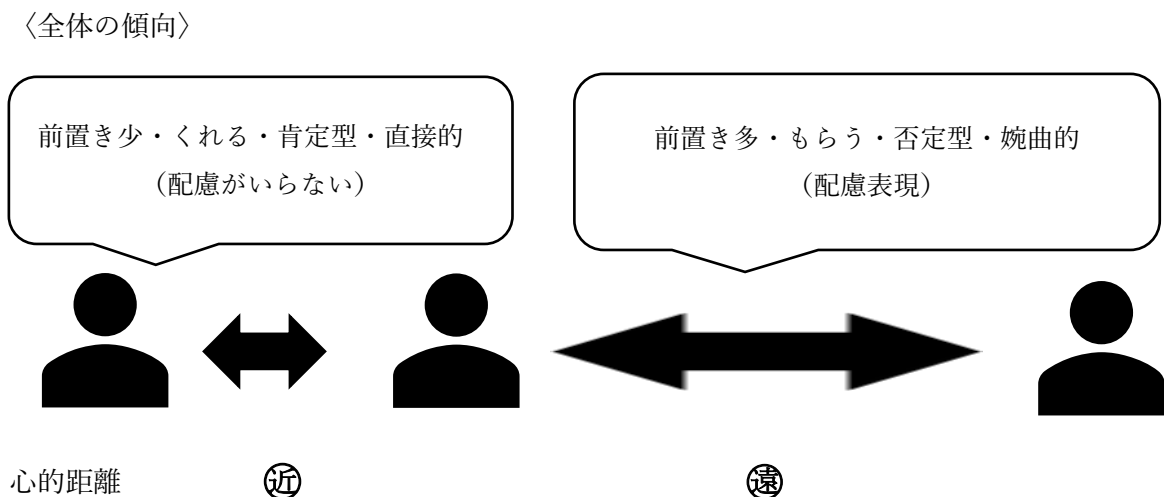
「前置き・理由の付属」に関しても同様で、「ちょっと」というクッションを挟んだり、依頼の理由を説明したりすることで相手の負担を少しでも減らそうという配慮になるため、心的距離が遠い相手に対するほど付属される傾向が高まるのではないかと考えられる。清水の著書の中で、相手の気持ちに対する配慮を表したり、依頼の必要性を伝えることによって引き受けてもらいやすくしたりする働きがあるストラテジーとして、「前置きする」「理由を言う」というストラテジーが記載されている。ここからも、「ちょっと」「すみません」といった呼びかけや「手がいっぱいなので」「重たいので」といった理由などを説明する一言が付属されることでより相手への配慮の気持ちを表すことができると考えられるため、心的距離が遠い人に対するほど付属されやすいのではないかと予測できる。

続いて②に関しては、「婉曲的依頼表現」は持って回った表現になってしまうため、心的距離が近い人に使用されると却って不快感を覚えやすいのではないかと予測さ

れる。先行研究では「丁寧だ」「回りくどい」という両側面の評価が言われていたが、心的距離が遠い人から使用されると「丁寧だ」と感じ、心的距離が近い人から使用されると「回りくどい」と感じやすいのではないかと考えられる。もしも、心的距離が遠い人から「配慮」の意をこめて使用されたはずの「婉曲的依頼表現」に対して不快感を覚えやすいという結果が出るのであれば、「婉曲的依頼表現」は「丁寧」な表現だという先行研究に対する批判になるのではないかと考察できるため、どの相手から使用されると不快感を覚えやすいのかに注意して調査する。

最後に③の世代差に関しては、先行研究などでも多く言われているように、若年層の方が婉曲的依頼表現を使用する割合が高く、婉曲的依頼表現に対する許容度も高い傾向があるのではないかと予測できる。

以上の仮説をまとめると以下のように図式化できる。



【図4】 本研究の仮説

〈世代間の差〉

若年層・・・婉曲的依頼表現の使用が多く、婉曲的依頼表現を使用されても不快に感じにくい

高年層になるにつれて・・・婉曲的依頼表現の使用が少なく、婉曲的依頼表現を使用されると不快に感じやすい

6. 調査結果

6.1 〈調査1〉 全体の傾向

〈調査1〉「多様な関係性の相手に対してどのような依頼表現を使用するのか」という調査結果を集計して、「くれる/もらう」「肯定型/否定型」「直接的依頼表現/婉曲的」依頼表現「前置き・理由の付属の有無」という視点別、10代~70代の年代別、家族~初対面の人という相手別に整理した結果が以下の表である。

【表2】 〈調査1〉の調査結果

「くれる/もらう」	家族	友達	後輩	先輩	先生	初対面の人	合計
くれる	46	72	56	9	4	4	191
10代	2	10	7	5	0	0	24
20代	22	34	26	4	2	1	89
30代	5	5	2	0	1	2	15
40代	6	3	4	0	1	0	14
50代	8	15	9	0	0	0	32
60代	2	3	6	0	0	0	11
70代	1	2	2	0	0	1	6
もらう	2	13	19	74	41	67	216
10代	0	0	1	2	2	3	8
20代	0	4	6	29	19	29	87
30代	0	2	1	3	2	6	14
40代	0	0	1	4	2	4	11
50代	2	4	9	25	12	17	69
60代	0	2	0	10	4	5	21
70代	0	1	1	1	0	3	6
「肯定型/否定型」	家族	友達	後輩	先輩	先生	初対面の人	合計
肯定型	19	30	40	21	18	19	147
10代	0	0	3	1	0	2	6
20代	0	6	9	9	6	6	36
30代	3	2	1	1	1	1	9
40代	7	2	3	0	1	1	14
50代	6	13	16	9	6	7	57
60代	2	4	5	1	4	2	18
70代	1	3	3	0	0	0	7
否定型	29	55	35	62	27	52	260

10代	2	10	6	5	0	1	24
20代	20	33	21	25	17	24	140
30代	2	5	2	2	2	7	20
40代	1	1	3	4	2	3	14
50代	4	5	2	16	6	10	43
60代	0	1	1	9	0	3	14
70代	0	0	0	1	0	4	5

直接的/婉曲的	家族	友達	後輩	先輩	先生	初対面の人	合計
直接的	199	138	127	113	119	99	795
10代	16	16	15	6	9	6	68
20代	95	70	55	46	52	40	358
30代	21	16	11	9	14	14	85
40代	14	7	7	7	9	6	50
50代	35	17	24	28	26	20	150
60代	12	7	9	11	8	7	54
70代	6	5	6	6	1	6	30
婉曲的	19	84	95	104	90	120	512
10代	2	2	3	12	8	12	39
20代	9	42	53	61	57	67	289
30代	0	5	10	9	3	6	33
40代	4	11	11	11	9	12	58
50代	4	18	15	11	12	18	78
60代	0	5	3	0	0	5	13
70代	0	1	0	0	1	0	2

前置き・理由	家族	友達	後輩	先輩	先生	初対面の人	合計
前置き・理由あり	97	134	165	157	124	167	844
10代	5	7	10	9	9	12	52
20代	41	75	82	80	64	75	417
30代	5	11	14	9	6	15	60
40代	9	11	17	18	12	17	84
50代	26	17	29	27	26	32	157
60代	7	10	10	8	6	12	53
70代	4	3	3	6	1	4	21

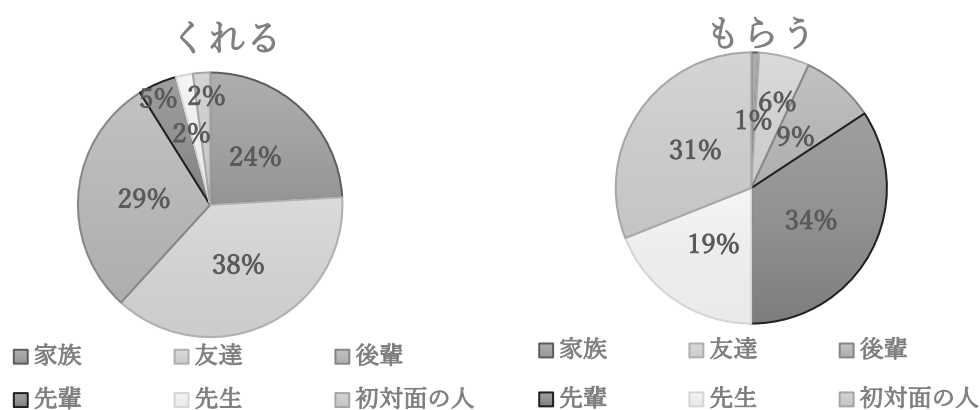
前置き・理由なし	125	88	57	60	85	52	467
10代	13	11	8	9	8	6	55
20代	67	33	26	27	44	32	229
30代	16	10	7	9	11	5	58
40代	9	7	1	0	6	1	24
50代	13	22	10	12	13	6	76
60代	5	2	2	3	2	0	14
70代	2	3	3	0	1	2	11

①「くれる/もらう」の使い分け

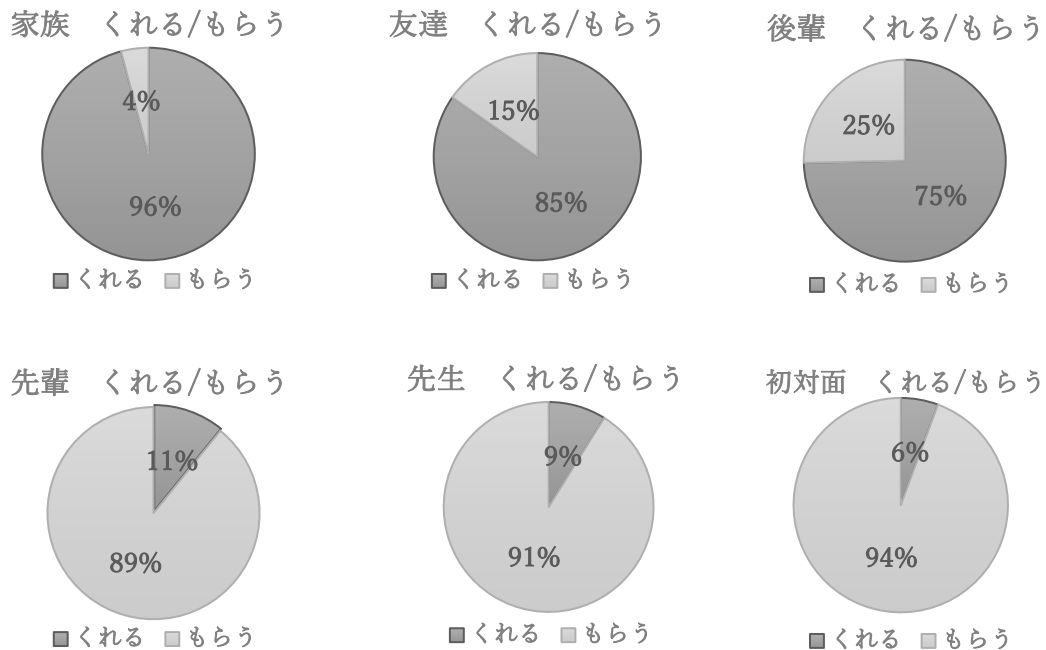
まず、「くれる」と「もらう」が相手との関係性によりどのように使い分けられているかに着目する。アンケート調査で得られた回答を「くれる」「もらう」に着目して集計したものが以下の表である。傾向を調べるために、「くれる」と「もらう」の全体の中での相手別の割合のグラフ（表の横での割合）と、相手ごとに使用される「くれる/もらう」の使い分けのグラフ（表の縦での割合）を作成した。

【表3】 「くれる/もらう」の使い分けの集計結果

①結果	家族	友達	後輩	先輩	先生	初対面の人	合計
くれる	46	72	56	9	4	4	191
もらう	2	13	19	74	41	67	216



【図5】 「くれる」「もらう」相手別の集計結果



【図 6】 「くれる」「もらう」相手ごとの使い分けの集計結果

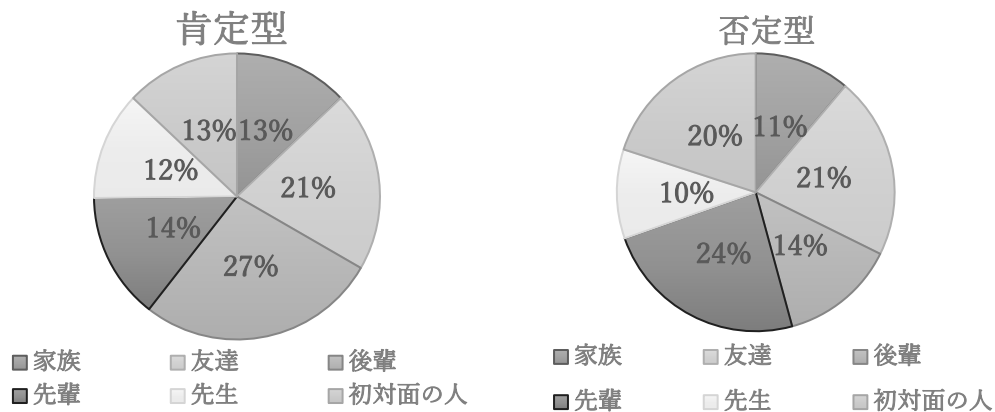
【図 5】 から、「くれる」は心的距離が近い相手として設定した「友達」、「後輩」、「家族」の順で割合が高く 3 者の合計が全体の 9 割を占めているのに対して、「もらう」は心的距離が遠い相手として設定した「先輩」、「初対面の人」、「先生」の順で割合が高く 3 者の合計が全体の 8 割を占めていることが分かる。「くれる」は「もらう」に比べて心的距離が近い相手に対して使用されやすい傾向があると言える。【図 6】 からも、家族→初対面の人と心的距離が遠くなるにつれて徐々に「くれる」の割合が減少し「もらう」の割合が増加する傾向が綺麗に表れている。「もらう」の方が、より丁寧で相手への敬意や配慮を示す表現だと意識している人が多いのではないかと考えられる。

②「肯定型/否定型」の使い分け

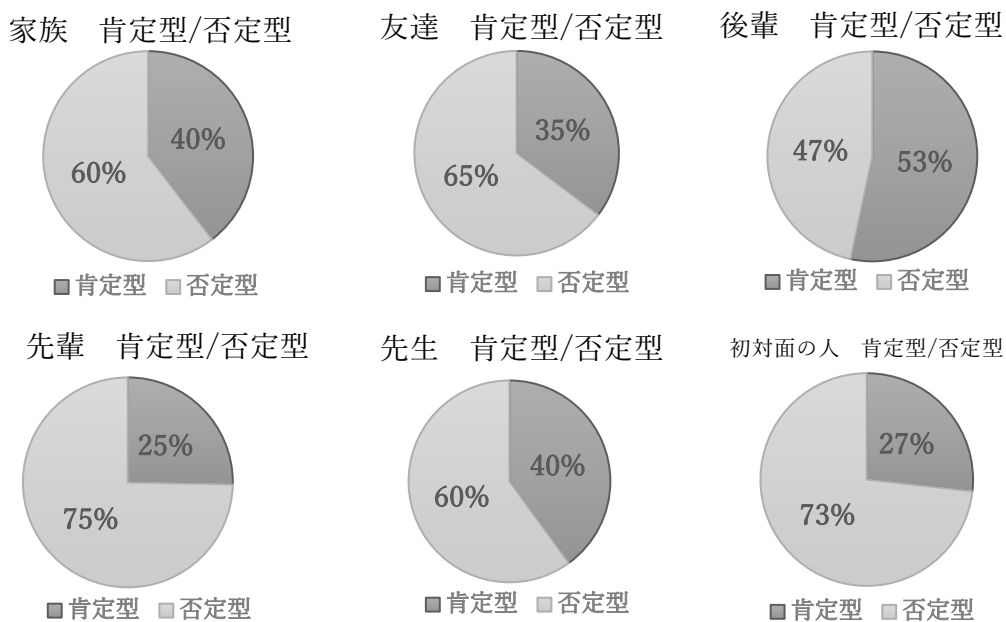
続いて、①と同様に「肯定型」と「否定型」が相手との関係性によりどのように使い分けられているかに着目する。「肯定型」「否定型」に着目して集計した表が以下の表であり、全体の中の相手別の割合のグラフ（表の横での割合）と、相手ごとの「肯定型/否定型」の使い分けのグラフ（表の縦での割合）が以下 8 つのグラフである。

【表 4】 「肯定型/否定型」の使い分けの集計結果

①結果	家族	友達	後輩	先輩	先生	初対面の人	合計
肯定	19	30	40	21	18	19	147
否定	29	55	35	62	27	52	260



【図 7】 「肯定型」「否定型」相手別の集計結果



【図 8】 「肯定型」「否定型」相手ごとの使い分けの集計結果

【図 7】より、「～くれる?」などの「肯定型」は割合が多い順に「後輩」、「友達」、「先輩」に、「～くれない?」などの「否定型」は「先輩」、「友達」、「初対面の人」という結果になった。全体の中での相手別の観点から見ると、やや「否定型」の方が「先輩」や「初対面の人」といった心的距離が遠い相手に使用されやすい傾向があるように思われる。それぞれの相手ごとに「肯定型/否定型」がどれくらいの割合で使用されているか示した【図 8】を見てみると、まず「後輩」に対して依頼する時のみ「肯定型」の使用率が半分を越え

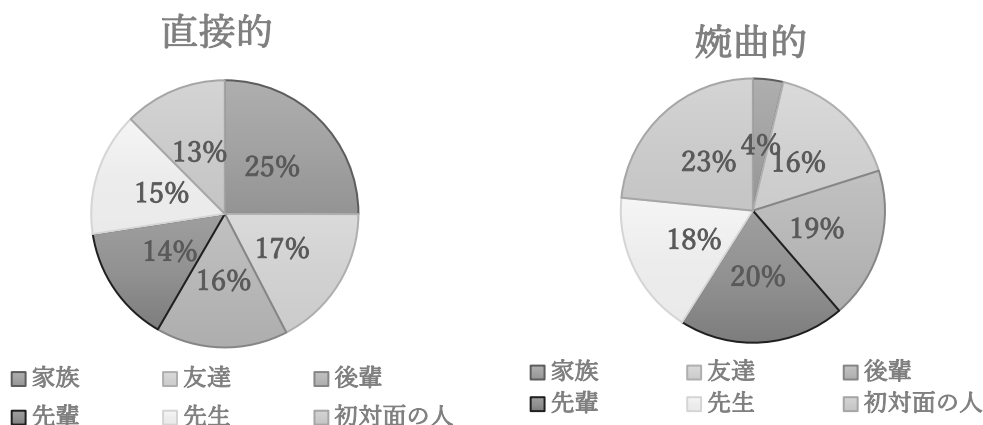
ていることが分かる。より心的距離が近いと仮定した「家族」「友達」よりも「肯定型」の使用が多いことから、社会的な立場も関係しているのかもしれないことがうかがえる。全体的な傾向としては、「先輩」と「初対面の人」ではほぼ4分の3が「否定型」であることから、「否定型」の方がより相手への敬意や配慮をこめた表現だという意識があることが分かる。その一方で、2番目に心的距離が遠い相手として設定した「先生」は、「家族」や「友達」といった心的距離が近い相手と同じ割合という結果となった。この結果に関しては一定した傾向から外れる結果となったため、考察が必要である。

③「直接的依頼表現/婉曲的依頼表現」の使い分け

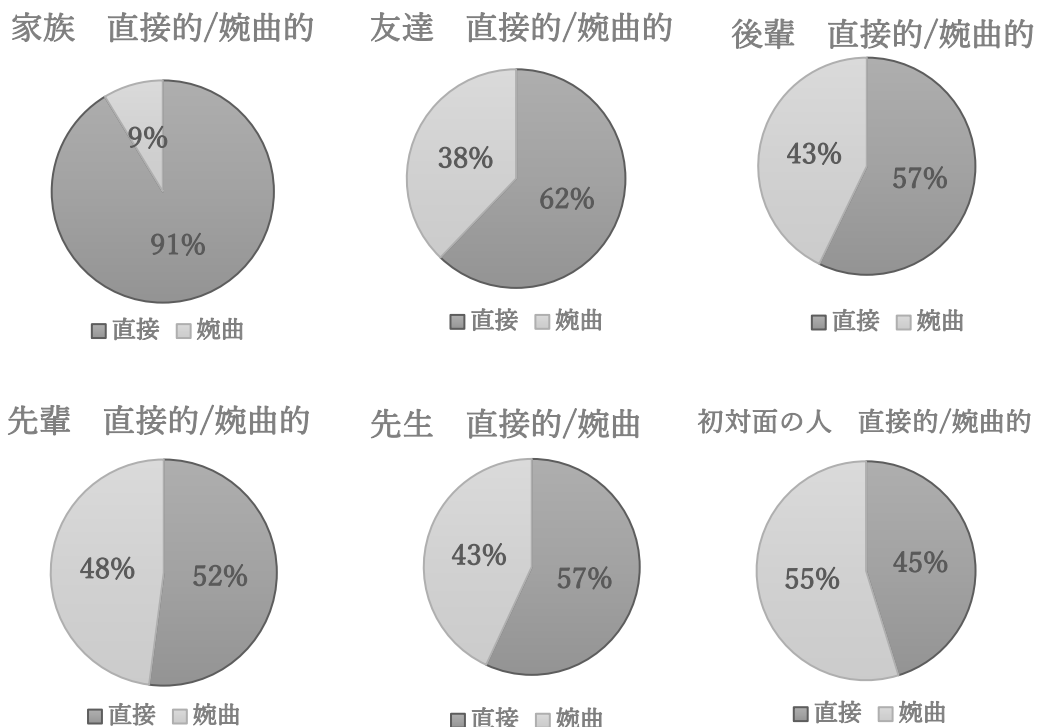
続いて、「直接的依頼表現」と「婉曲的依頼表現」が相手との関係性によりどのように使い分けられているかに着目する。「直接的依頼表現」と「婉曲的依頼表現」の使い分けに着目して集計した表が以下の表であり、全体の中の相手別の割合のグラフ（表の横での割合）と、相手ごとの「直接的依頼表現/婉曲的依頼表現」の使い分けのグラフ（表の縦での割合）が以下8つのグラフである。

【表5】 「直接的依頼表現/婉曲的依頼表現」の使い分けの集計結果

①結果	家族	友達	後輩	先輩	先生	初対面の人	合計
直接	199	138	127	113	119	99	795
婉曲	19	84	95	104	90	120	512



【図9】 「直接的依頼表現」と「婉曲的依頼表現」相手別の集計結果



【図 10】 「直接的依頼表現」と「婉曲的依頼表現」相手ごとの使い分けの集計結果

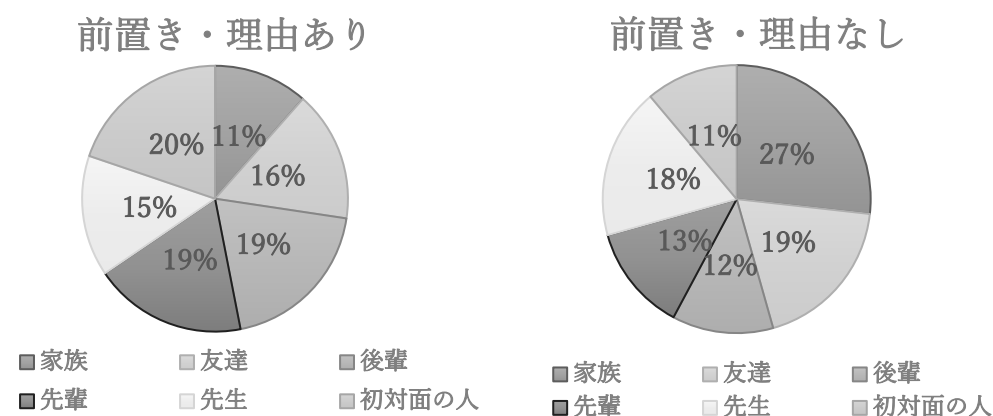
【図 9】より、「直接的依頼表現」の使用は割合が多い順に「家族」、「友達」、「後輩」、「婉曲的依頼表現」は「初対面の人」、「先輩」、「後輩」という結果となった。2つのグラフを比較すると「婉曲的依頼表現」において、「家族」の割合が圧倒的に減少し「初対面の人」が増加していることから、仮説通り、心的距離が遠くなるにつれてより遠回しな「婉曲的依頼表現」を使用しやすい傾向があることが分かる。ここからも、「婉曲的依頼表現」をより丁寧な表現だと意識している人が多いことをうかがうことができる。しかし【図 10】を見ると、「先生」は「後輩」と同じ割合の使い分けであり、本来ならば「先輩→先生→初対面の人」と「婉曲的依頼表現」の使用率が増加していくはずが一定した傾向から外れた結果となっている。②の「肯定型/否定型」の使い分け同様、「先生」の値に関して考察する必要がある。

④「前置き・理由の付属の有無」

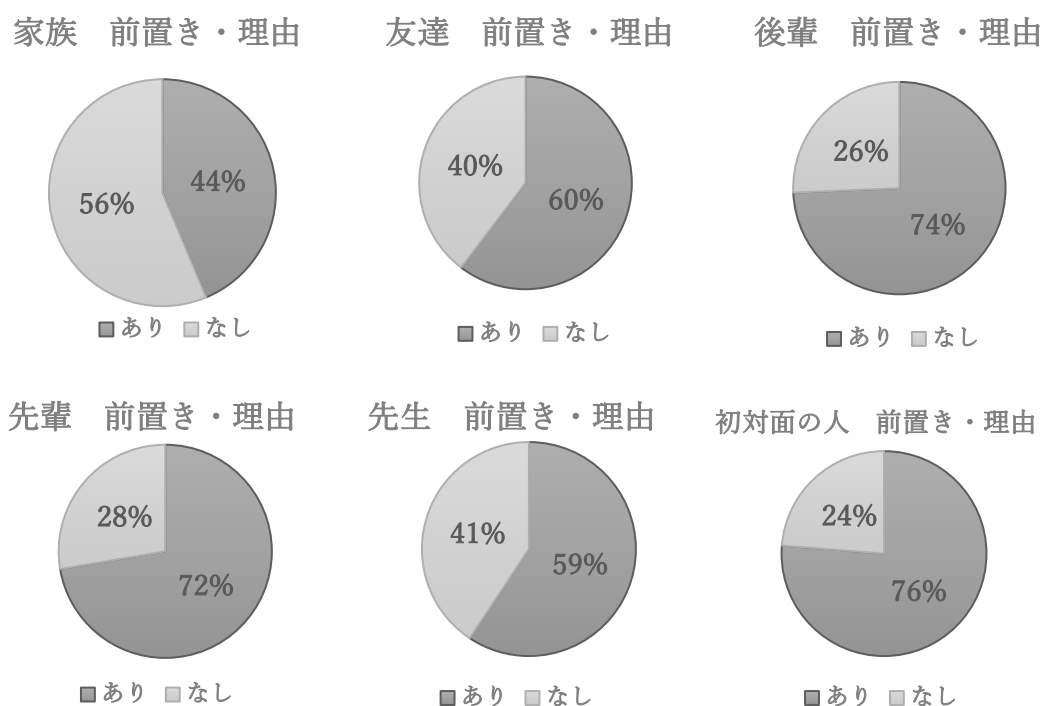
最後に、「前置き・理由の付属の有無」が相手との関係性によりどのように変化しているかに着目する。得られた回答を集計した表が以下の表であり、全体の中での相手別の割合のグラフ（表の横での割合）と、相手ごとの「前置き・理由の付属の有無」の割合のグラフ（表の縦での割合）が以下8つのグラフである。

【表 6】 「前置き・理由の付属の有無」の集計結果

①結果	家族	友達	後輩	先輩	先生	初対面の人	合計
呼びかけあり	97	134	165	157	124	167	844
呼びかけなし	125	88	57	60	85	52	467



【図 11】 「前置き・理由の付属の有無」相手別の集計結果



【図 12】 「前置き・理由の付属の有無」相手ごとの使い分けの集計結果

前置き・理由の付属がある相手としては、【図 11】より、割合が多い順に「初対面の人」、

「後輩・先輩」、「友達」という結果となった。付属がない相手のグラフと比較すると、特に「家族」では付属が少なく、「初対面の人」では付属の割合が高い傾向が見られる。これらのことから、全体的な傾向としては、心的距離が遠く配慮が必要な相手に依頼する場面ほど、前置きを付属させて相手の負担度を減らそうと配慮する意識が見られるといえる。しかし、「友達」や「先生」に対する割合にはそれほど大きな差が見られず、【図 12】を見ても「先生」と「友達」の割合が同程度になっていることが分かる。ここから、「初対面の人」のように心的距離が極端に遠い相手に対しては前置きなどを付属させようとする意図が見られるが、それほど距離が遠くないと感じている相手に対しては付属させない人も多いことが読み取れる。また、②③の結果と同様に今回も「先生」の値が一定した傾向を示さなかったため後で考察を行う。

6. 調査結果

6.1.2 〈調査1〉 世代別傾向

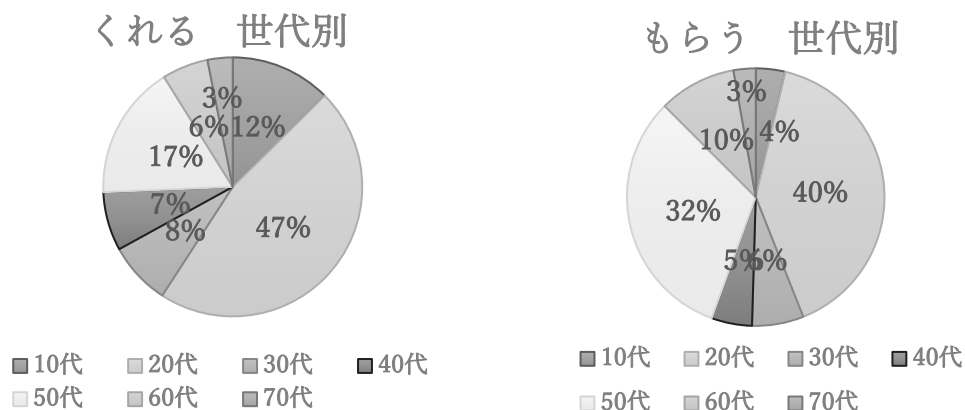
続いて、〈調査1〉の回答を10代~70代までの年代ごとに分けて整理し、「くれる/もらう」「肯定型/否定型」「直接的依頼表現/婉曲的依頼表現」「前置き・理由の付属の有無」それぞれの視点から世代別の傾向が見られないか分析を行う。

①「くれる/もらう」の世代別の使用比率

まず、「くれる」と「もらう」の使用について、10代~70代ごとに回答を集計して、世代別の傾向が見られるかどうか分析する。

【表7】 「くれる」「もらう」世代別の集計結果

①年代	くれる	もらう
10代	24	8
20代	89	87
30代	15	14
40代	14	11
50代	32	69
60代	11	21
70代	6	6
計	191	217



【図 13】 「くれる」「もらう」世代別集計結果 円グラフ

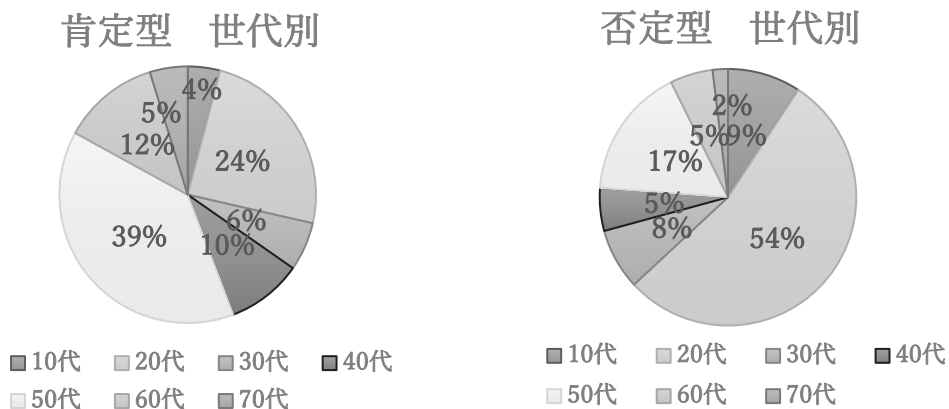
「くれる」と「もらう」の使用比率を世代別に分類して比較してみると、全体的に「くれる」の方が比較的若い世代に使用されやすい傾向があることが分かる。今回の調査では、世代ごとに得られた回答数が同じではないためあくまで全体的な傾向しかみることができないが、世代が低くなるにつれて「もらう」の割合が減少していることから、ある程度の傾向は表れていると言えるのではないだろうか。ここから、世代別の傾向として、若い世代の方が「もらう」よりも「くれる」を選択しやすいことが明らかとなった。

②「肯定型/否定型」の世代別の使用比率

続いて、「肯定型」と「否定型」の使用について、10代~70代ごとに回答を集計して、世代別の傾向が見られるかどうか分析する。

【表 8】 「肯定型」「否定型」世代別の集計結果

年代	肯定型	否定型
10代	6	24
20代	36	140
30代	9	20
40代	14	14
50代	57	43
60代	18	14
70代	7	13
計	147	260



【図 14】 「肯定型」「否定型」世代別集計結果 円グラフ

「肯定型」では50代・60代・70代で半分の割合を占めているのに対して、「否定型」では10代と20代でほぼ半分の割合を占めている。ここから、「肯定型」の使用は比較的中高年層の使用が多く、「否定型」の使用は比較的若年層での使用が多いことが分かる。「～くれない?」のような「否定型」は若者の特徴的な表現だと言えるのではないだろうか。

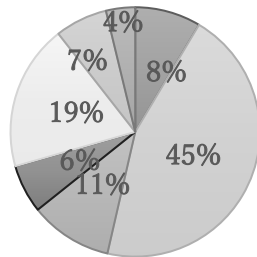
③ 「直接的依頼表現/婉曲的依頼表現」の世代別の使用比率

続いて、「直接的依頼表現」と「婉曲的依頼表現」の使用について、10代~70代ごとに回答を集計して、世代別の傾向が見られるかどうか分析する。

【表 9】 「直接的依頼表現」「婉曲的依頼表現」世代別の集計結果

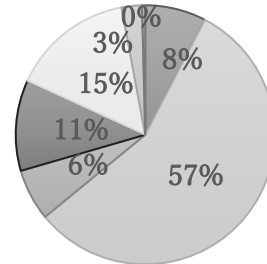
年代	直接的	婉曲的
10代	68	39
20代	358	289
30代	85	33
40代	50	58
50代	150	78
60代	54	13
70代	30	2
計	795	512

直接的 世代別



■10代 ■20代 ■30代 ■40代
 ■50代 ■60代 ■70代

婉曲的 世代別



■10代 ■20代 ■30代 ■40代
 ■50代 ■60代 ■70代

【図 15】 「直接的依頼表現」「婉曲的依頼表現」世代別集計結果 円グラフ

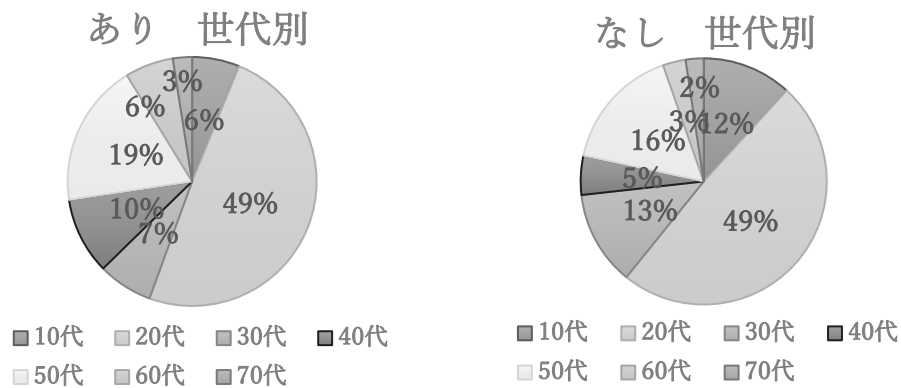
仮説では「婉曲的依頼表現」は若年層に多く使用される傾向が見られるのではないかと考えていたが、それほど大きな世代差が表れなかった。20 代の使用率が「婉曲的依頼表現」でやや増加し、50 代・60 代・70 代での使用率がやや減少していることから、多少は若年層の方が「婉曲的依頼表現」を使用しやすい傾向があるとも言えるかもしれないが、若者特有の表現だと言いきれるまでの傾向は現れなかった。仮説と外れた結果となったため後で考察を行うが、新たな発見となった。

④「前置き・理由の付属の有無」の世代別

最後に、「前置き・理由の付属の有無」について、10 代~70 代ごとに回答を集計して、世代別の傾向が見られるかどうか分析する。

【表 10】 「前置き・理由の付属の有無」世代別の集計結果

年代	前置きあり	前置きなし
10 代	52	55
20 代	417	229
30 代	60	58
40 代	84	24
50 代	157	76
60 代	53	14
70 代	21	11
計	844	467



【図 16】 「前置き・理由の付属の有無」世代別集計結果 円グラフ

「前置き・理由の付属の有無」に関しては、やや 40代・50代・60代などの中高年層で付属させる人の割合が高くなっていった。しかし、それほど大きな差とは言い切れずそれほど世代間で意識に差がみられないことが明らかとなった。

6. 調査結果

6.2.1 〈調査2〉 全体の傾向

続いて、〈調査2〉の「多様な相手から「直接的依頼表現」と「婉曲的依頼表現」を使用した場合に受ける印象調査」の結果をまとめる。全体的な傾向と、「直接的依頼表現」と「婉曲的依頼表現」を使用した際の印象が相手によりどう変わるのか明らかにしていく。設問ごとに回答を集計した表が以下の表である。

【表 11】 〈調査2〉集計結果

印象調査	①もらえる(ますか)?				②くれない(ですか)?				③もらってもいい(ですか)?				④重たいなあ/届かないなあ/忘れてしまったなあ				⑤くれたりしない(ませんか)?			
	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ				
家族	6	36	10	43	4	16	4	26	19	10										
友達	6	33	6	43	4	24	7	34	11	13										
後輩	2	35	4	38	13	7	6	34	12	19										
先輩	7	42	4	49	32	13	14	33	20	19										
先生	7	39	14	43	8	11	5	40	12	19										
初対面の人	5	37	8	33	32	3	9	27	20	15										

【補足】

※実際の調査とは質問の順番を変更して、表にまとめる際に比較しやすいように整理した

※複数回答可にしたため、総数が一致していない

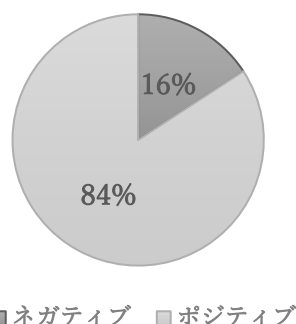
※直接的依頼表現・・・①「もらえる（ますか）？」・②「くれない（ませんか）？」

婉曲的依頼表現・・・③「もらってもいい（ですか）？」・④「重たいなあ/届かないなあ/忘れてしまったなあ」・⑤「くれたりしない（ませんか）？」

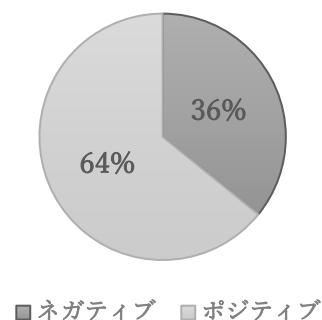
①全体の傾向

まず、「直接的依頼表現」と「婉曲的依頼表現」を使用された際の印象について、全体的な結果をまとめる。世代・相手を問わず「直接的依頼表現」と「婉曲的依頼表現」に対して「ポジティブ」だと感じるか「ネガティブ」だと感じるか回答を集計した表が以下のグラフである。

直接的表現①②



婉曲的表現③④⑤

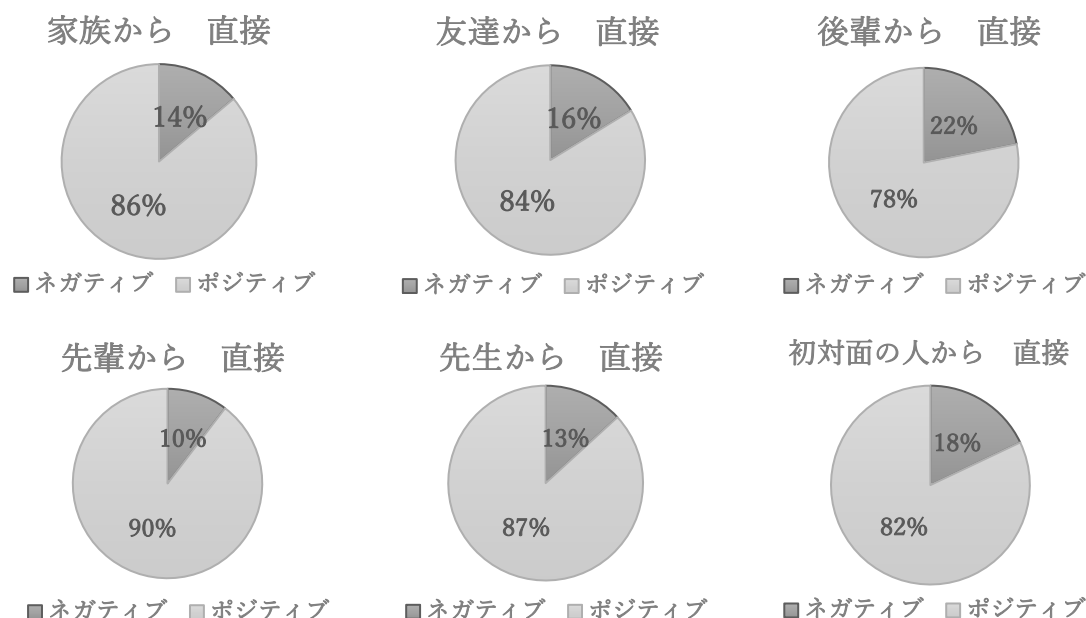


【図 17】 「直接的依頼表現」と「婉曲的依頼表現」の使用に対する印象

「直接的依頼表現」と「婉曲的依頼表現」の使用に対する印象のグラフを比較してみると、「婉曲的依頼表現」に対してはネガティブな印象を抱く人が多いことが分かる。調査における自由記述欄にも、「重たいなあ～」や「貸してくれたりしませんか」などの「婉曲的依頼表現」の使用に対して「めんどくさい」「内心腹立つ」「貸したくなくなる」などの否定的な意見を述べる人が一定数いた。一方で、「婉曲的依頼表現」を使用することで「心理的な距離が近い」というポジティブ・ポライトネスに該当する印象を抱く人も多数みられ、「ネガティブ」だと回答する人は6割程度にとどまる結果となった。予想よりも低い割合であり、ここから「婉曲的依頼表現」の使用が必ずしも人々に不快な印象を与えるわけではないことが分かる。

②「直接的依頼表現」 相手別

続いて、「直接的依頼表現」を「誰から使用されたか」により感じる印象に違いが表れるのか調べるために、相手別にポジティブ/ネガティブの回答を集計する。

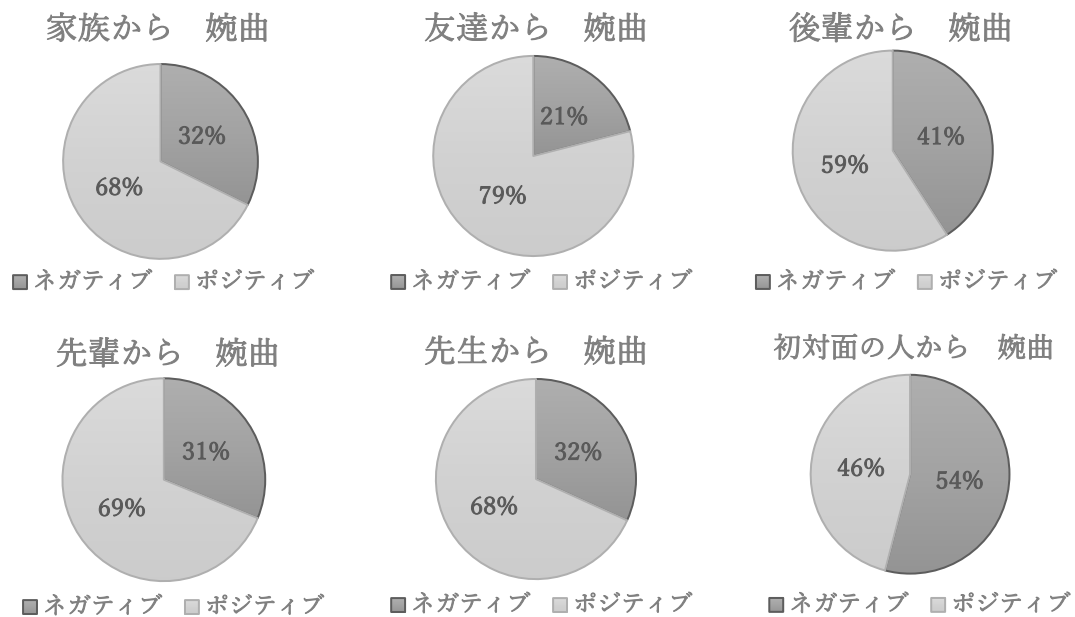


【図 18】 「直接的依頼表現」の印象 相手別の集計結果

誰から言われるかという相手によって印象に差があるのではないかと思い相手別に比較してみたが、6者からのグラフの形がどれも類似であるため、「直接的依頼表現」に対する印象には、誰から言われたかということあまり作用しないことが分かる。直接的依頼表現は、誰から言われたとしても「心理的な距離が近い」「丁寧だ」というポジティブな印象を抱きやすいことがいえる。心的距離が遠い人からはズバツと直接的に依頼されるよりは婉曲的に依頼される方がより「丁寧だ」と感じやすいのではないかという予測に反する結果となった。

③「婉曲的依頼表現」 相手別

続いて「婉曲的依頼表現」についても同様に、「誰から使用されたか」により感じる印象に違いが表れるのか調べるために、相手別にポジティブ/ネガティブの回答を集計する。



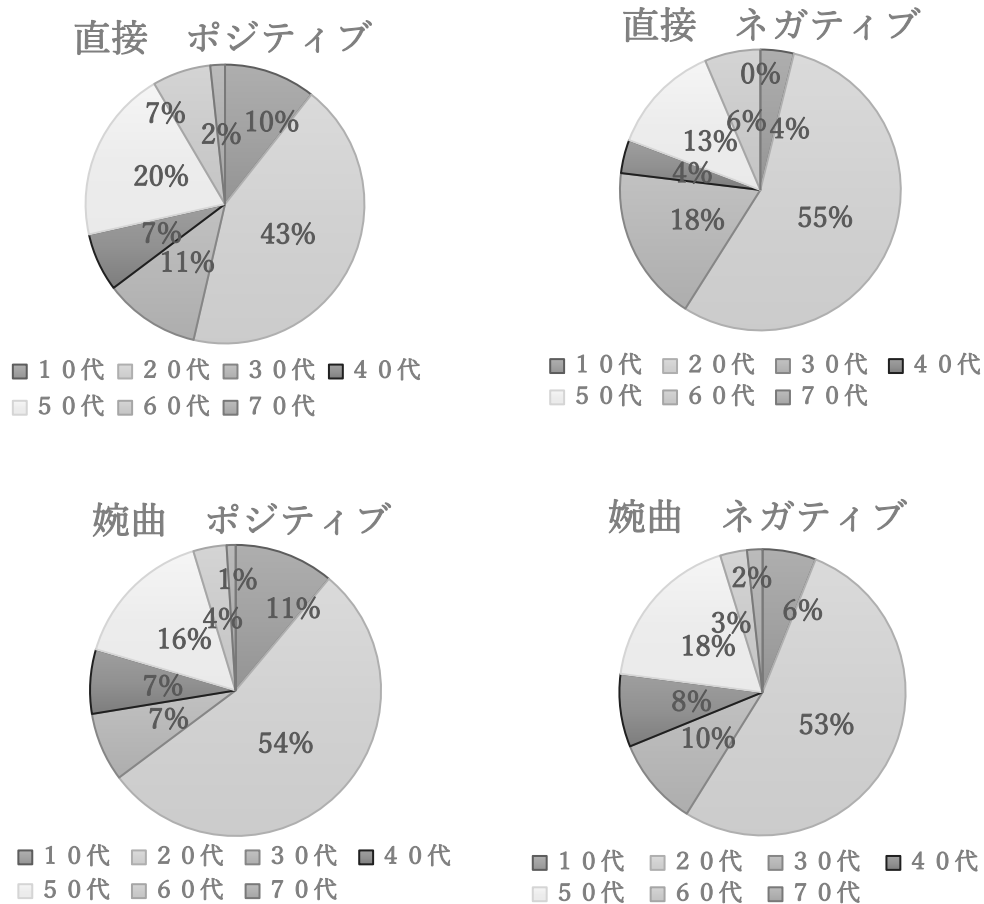
【図 19】 「婉曲的依頼表現」の印象 相手別の集計結果

「婉曲的依頼表現」は、相手別に比較すると「友達」から使用された際に最もポジティブな印象を受けやすいことが分かる。また、「初対面」の人から使用されると、ネガティブな印象を受ける人の割合が過半数を超えている。ここから、心的距離が近い相手から使用されるほどポジティブな印象を抱きやすく、心的距離が遠く人間関係が構築されていない相手から使用されるとネガティブな印象を抱きやすい傾向が読み取れる。しかし、「家族」から使用された際の印象を見ると、「先輩」や「先生」と同程度の割合であるため、一概にそのような傾向があるとは完全に言い切れないことが分かる。

6. 調査結果

6.2.2 〈調査 2〉 世代別傾向

最後に、〈調査 2〉の印象調査について 10 代~70 代ごとに回答を集計して、世代別に「直接的依頼表現」と「婉曲的依頼表現」の使用に対する印象に違いが見られるのかどうか分析する。



【図 20】 〈調査 2〉 世代別の集計結果

まず「直接的依頼表現」に対するポジティブ/ネガティブな印象の世代差を比較してみると、10代は「ポジティブ」と感じる人が多いが20代・30代では「ネガティブ」だと感じる人が多く、40代・50代で再び「ポジティブ」と感じる人の割合が高くなっている。一貫した傾向を示していないことから、「直接的依頼表現」を使用された際の印象に、特に世代差はそれほど生じていないことが読み取れる。「直接的依頼表現」は、「婉曲的依頼表現」よりも一般的な依頼表現であるため、印象にも個人の好き嫌いが大きく影響を及ぼしているのかもしれない。

「婉曲的依頼表現」に対する印象の世代差に着目してみると、「ポジティブ」のグラフと「ネガティブ」のグラフの形がほぼ同じであり、特に世代差が生じていないことが分かる。仮説では、「婉曲的依頼表現」に対して、若い世代の方がより肯定的な印象を抱くのではないかと予想していたが、実際の調査ではほぼ全くと言っていいほど差が生じなかった。〈調査 1〉の依頼表現の使用傾向の調査においても、「婉曲的依頼表現」の使用にあまり世代差が生じていないことが明らかになっており、「婉曲的依頼表現」には、その使用頻度・使用への印象共に世代間による差が表れにくいのだということが新たに明らかになった。先

行研究では、若い世代の方が「婉曲的依頼表現」を許容しやすく今後も特に若い世代で
使用が広がっていくのではないかということが述べられていたが、今回の調査の限りでは、
一概にそのような傾向があるとは言い難い結果になった。

7. 考察

以上の結果から分かる事を、「心的距離と依頼表現の使用について」、「世代差について」、
「婉曲的依頼表現について」、「依頼」という行為についてそれぞれ考察する。

7.1 心的距離と依頼表現の使用について

まず心的距離と依頼表現の使用に関連して、〈調査1〉で明らかになったことを整理する。

心的距離が遠くなるにつれて

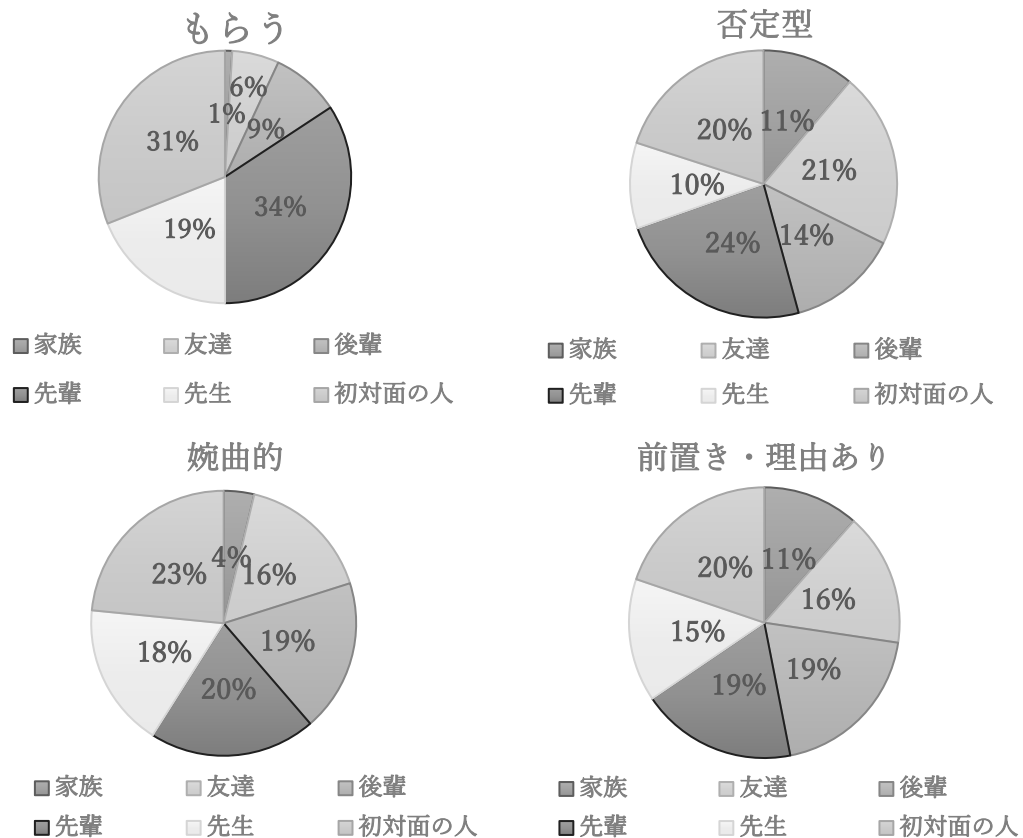
- ・「くれる」の使用が減少し「もらう」の使用が増加する傾向がある
- ・「否定型」の使用が高まる傾向が見られたが、先生にはその傾向が見られない
- ・「直接的依頼表現」の使用が減少し「婉曲的依頼表現」の使用が増加傾向にあるが先生にはその傾向が見られない
- ・「前置き・理由の付属」は、心的距離が極端に遠い相手に対しては付属させようとする意図が見られるが、それほど距離が遠くないと感じている相手に対しては付属させない人も多い

全体的な結果としては、先行研究でも明らかにされていたように、相手との心的距離が遠くなり相手への配慮が必要になると「もらう」「否定型」「婉曲的依頼表現」の使用、「前置き・理由の付属」が増加することが確認できた。依頼の負担度だけでなく、やはり心的距離も依頼表現の選択には多大な影響を及ぼしており、そこには、相手へ配慮しようとする人間の心理が働いていることが分かった。

ここではさらに細かく、「もらう」「否定型」「婉曲的依頼表現」「前置き・理由あり」と「くれる」「肯定型」「直接的表現」「前置き・理由なし」について、心的距離が遠い順/近い順にどの要素が強く選択されやすいのかに関して考察を行う。そのために、それぞれの視点別に集計したグラフを比較し、心的距離が最も遠い相手として設定した「初対面の人」、最も近い相手として設定した「家族」への使用が多い表現を調査する。2者だけで一貫した傾向が見られなければ、2番目に心的距離が遠い「友達」への使用比率も参考にする。「初対面の人」「家族」に使用される割合が多いものが、より強く選択されやすい表現であるという仮説のもと分析を行う。

○「もらう」「否定型」「婉曲的依頼表現」「前置き・理由の付属」の強さ

まず、心的距離が遠い相手に使用されやすい、「もらう」「否定型」「婉曲的依頼表現」「前置き・理由の付属」の強さを明らかにするため、それぞれのグラフを比較する。



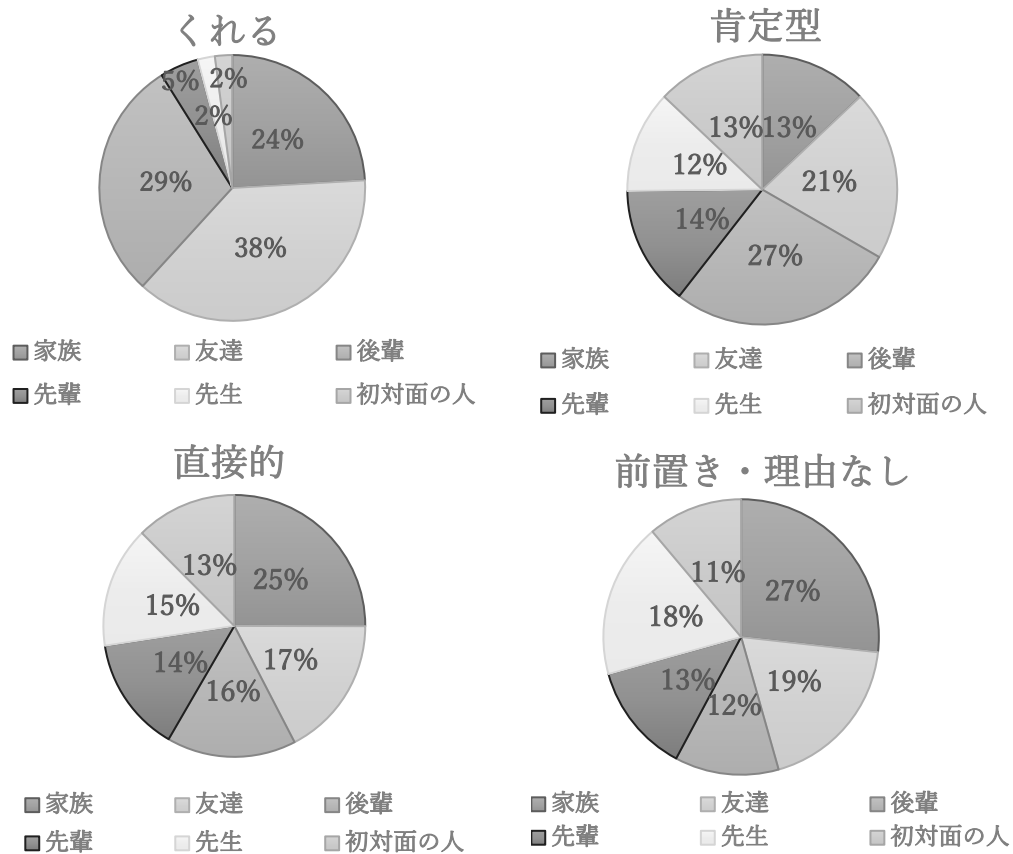
【図 21】 「もらう」「否定型」「婉曲的依頼表現」「前置き・理由あり」の比較

最も心的距離が遠い相手として設定した「初対面の人」に使用される割合に着目してみると、数値が多い順に「もらう (31%)」→「婉曲的依頼表現(23%)」→「否定型・前置きなどの付属(20%)」という順になっている。反対に最も心的距離が近い相手として設定した「家族」に着目すると、「否定型・前置きなどの付属(11%)」→「婉曲的依頼表現(4%)」→「もらう(1%)」という順になっている。「否定型・前置きなどの付属」がどちらも同数値だったことから、2 番目に心的距離が近い相手として設定した「友達」に着目すると、「否定型 (21%)」→「前置きなどの付属/婉曲的依頼表現(16%)」→「もらう(6%)」となっている。

このことから、心的距離が遠い相手に対して使用されやすい「もらう」「否定型」「婉曲的依頼表現」「前置き・理由の付属」の中でも、より強く意識されて使用されている表現の順番を考えると、「もらう」→「婉曲的依頼表現」→「前置き・理由の付属」→「否定型」という順番になることが考えられる。

○「くれる」「肯定型」「直接的依頼表現」「前置き・理由の付属なし」の強さ

続いて、心的距離が近い相手に使用されやすい「くれる」「肯定型」「直接的依頼表現」「前置き・理由の付属なし」についても同様に考えていく。



【図 22】 「くれる」「肯定型」「直接的依頼表現」「前置き・理由なし」の比較

最も心的距離が近い相手として設定した「家族」に使用される割合に着目してみると、数値が多い順に「前置きなどなし (27%)」→「直接的依頼表現(25%)」→「くれる(24%)」→「肯定型(13%)」という順になっている。2番目に心的距離が近いとして設定した「友達」をみると、「くれる(38%)」→「肯定型 (21%)」→「前置きなどなし(19%)」→「直接的依頼表現(17%)」となっている。反対に最も心的距離が遠い相手として設定した「初対面の人」をみると、「肯定型・直接的依頼表現(13%)」→「前置きなどなし(11%)」→「くれる(2%)」となっている。数値が近似であり一貫した傾向が見られないため、「(家族+友達) - 初対面の人」という計算をしてみると、「くれる」→「前置き・理由なし」→「直接的依頼表現」→「肯定型」という順番を導くことができた。

ここから、心的距離が遠い相手に対しては、「もらう」>「婉曲的依頼表現」>「前置き・理由の付属」>「否定型」が使用されやすく、心的距離が近い相手に対しては「くれる」>「前置き・理由なし」>「直接的依頼表現」>「肯定型」が使用されやすいことが

明らかとなった。

そして、ここで明らかとなったことを、相手との心的距離に対応させながら構造的に整理する。そのために、南（1974,1993）などの先行研究を参考に、上記の4つの分析の視点に加えて「否定型」の中の「～ないですか」と「～ませんか」という使い分けと、依頼の際に「～か?」という終助詞が付属するかどうかに関しても追加で分析を行う。

①「前置き・理由の付属の有無」・②「くれる/もらう」・③「直接的依頼表現/婉曲的依頼表現」・④「肯定型/否定型（⑤否定型の中の「～ないですか/～ませんか）」・⑥「終助詞「か?」の有無」という6つの視点で表現を分類・整理することで、本調査で明らかになったことを視覚的にまとめることができると考えた。

⑤と⑥に関する調査を追加で行ってみると、「～してくれ（もらえ）ないですか?」「～してくれ（もらえ）ませんか」の使い分けに関して以下の結果となった【表 12】。今回の調査では「～ないですか」はほとんど使用されておらず、「～ませんか」は、「先生」と「初対面の人」への使用が多かったが、特に強い傾向は見られなかった。ただ、「～ないですか」と「～ませんか」を比較すると、「～ませんか」の方が使用されることが多いことから、比較的丁寧で一般的な言い方なのだと予測できる。【表 13】より、終助詞「か」に関しては「～してくれませんか」「～してもらってもいいですか」のように、敬語で依頼をする場面ではほとんど「か」が付属していた。今回は文面上での調査を行ったため、「か」の有無と心的距離の関係性はあまり見られなかった。

【表 12】 「ないですか」「ませんか」の使い分け

ないですか/ませんか	家族	友達	後輩	先輩	先生	初対面の人	合計
～ないですか	0	0	0	1	2	2	5
10代	0	0	0	0	0	1	1
20代	0	0	0	0	2	1	3
30代	0	0	0	0	0	0	0
40代	0	0	0	0	0	0	0
50代	0	0	0	1	0	0	1
60代	0	0	0	0	0	0	0
70代	0	0	0	0	0	0	0
～ませんか	0	0	0	0	49	47	96
10代	0	0	0	0	5	2	7
20代	0	0	0	0	22	21	43
30代	0	0	0	0	2	6	8
40代	0	0	0	0	2	3	5
50代	0	0	0	0	6	9	15
60代	0	0	0	0	11	2	13

ないですか/ませんか	家族	友達	後輩	先輩	先生	初対面の人	合計
70代	0	0	0	0	1	4	5

【表 13】 終助詞「か」の使い分け

終助詞「か」	家族	友達	後輩	先輩	先生	初対面の人	合計
終助詞「か」	0	0	9	185	152	180	526
10代	0	0	0	13	8	13	34
20代	0	0	8	95	84	87	274
30代	0	0	0	10	8	14	32
40代	0	0	0	17	14	15	46
50代	0	0	1	38	30	35	104
60代	0	0	0	9	6	11	26
70代	0	0	0	3	2	5	10

ここまでで分かったことをまとめ、依頼表現を心的距離との関連の面から構造化して整理した表が以下の表である⁹。

【表 14】 心的距離と依頼表現の使い分けの構造化

遠⇄近	前置き・理由 ちょっと	動詞 取る	授受表現 もらう(いただく) くれる(くださる)	婉曲 たりする	否定 ん/ない	丁寧 です/ます	終助詞 か	例
1	ちょっと	取る	いただく	たりする	ん	ます	か	ちょっと取っていただけたり しませんか。
2	ちょっと	取る	いただく	たりする	ない	です	か	ちょっと取っていただけたり しないですか。
3	ちょっと	取る	いただく	たりする	∅	ます	か	ちょっと取っていただけたり しますか。
4	∅	取る	いただく	たりする	ん	ます	か	取っていただけたりしません か。
5	∅	取る	いただく	たりする	ない	です	か	取っていただけたりしない ですか。
6	∅	取る	いただく	たりする	∅	ます	か	取っていただけたりします か。
7	ちょっと	取る	いただく	∅	ん	ます	か	ちょっと取っていただけませ んか。
8	ちょっと	取る	いただく	∅	ない	です	か	ちょっと取っていただけない ですか。
9	ちょっと	取る	いただく	∅	∅	ます	か	ちょっと取っていただけませ んか。
10	∅	取る	いただく	∅	ん	ます	か	取っていただけませんか。
11	∅	取る	いただく	∅	ない	です	か	取っていただけないですか。
12	∅	取る	いただく	∅	∅	ます	か	取っていただけませんか。

⁹ 1 が最も心的距離が遠く、数字が大きくなるにつれて心的距離が近づいていく。ここでは、前置き・理由は「ちょっと」、動詞は「取る」、婉曲表現は「たりする」という場面を設定して整理した。表記は全て終止形で表している。

13	ちょっと	取る	くださる	たりする	ん	ます	か	ちょっと取ってくださいたり しませんか。
14	ちょっと	取る	くださる	たりする	ない	です	か	ちょっと取ってくださいたり しないですか。
15	ちょっと	取る	くださる	たりする	〇	ます	か	ちょっと取ってくださいたり しますか。
16	〇	取る	くださる	たりする	ん	ます	か	取ってくださいたりしません か。
17	〇	取る	くださる	たりする	ない	です	か	取ってくださいたりしない ですか。
18	〇	取る	くださる	たりする	〇	ます	か	取ってくださいたりします か。
19	ちょっと	取る	くださる	〇	ん	ます	か	ちょっと取ってくださいませ んか。
20	ちょっと	取る	くださる	〇	ない	です	か	ちょっと取ってくださいませ んか。
21	ちょっと	取る	くださる	〇	〇	ます	か	ちょっと取ってくださいませ んか。
22	〇	取る	くださる	〇	ん	ます	か	取ってくださいませんか。
23	〇	取る	くださる	〇	ない	です	か	取ってくださいませんか。
24	〇	取る	くださる	〇	〇	ます	か	取ってくださいませんか。
25	ちょっと	取る	もらう	たりする	ん	ます	か	ちょっと取ってもらえたり しませんか。
26	ちょっと	取る	もらう	たりする	ない	です	か	ちょっと取ってもらえたり しないですか。
27	ちょっと	取る	もらう	たりする	〇	ます	か	ちょっと取ってもらえたり しますか。
28	〇	取る	もらう	たりする	ん	ます	か	取ってもらえたりしません か。
29	〇	取る	もらう	たりする	ない	です	か	取ってもらえたりしない ですか。
30	〇	取る	もらう	たりする	〇	ます	か	取ってもらえたりします か。
31	ちょっと	取る	もらう	〇	ん	ます	か	ちょっと取ってもらえませ んか。
32	ちょっと	取る	もらう	〇	ない	です	か	ちょっと取ってもらえない ですか。
33	ちょっと	取る	もらう	〇	〇	ます	か	ちょっと取ってもらえます か。
34	〇	取る	もらう	〇	ん	ます	か	取ってもらえませんか。
35	〇	取る	もらう	〇	ない	です	か	取ってもらえないですか
36	〇	取る	もらう	〇	〇	ます	か	取ってもらえますか。
37	ちょっと	取る	くれる	たりする	ん	ます	か	ちょっと取ってくれたりし ませんか。
38	ちょっと	取る	くれる	たりする	ない	です	か	ちょっと取ってくれたりし ないですか。
39	ちょっと	取る	くれる	たりする	〇	ます	か	ちょっと取ってくれたりし ますか。
40	〇	取る	くれる	たりする	ん	ます	か	取ってくれたりしません か。
41	〇	取る	くれる	たりする	ない	です	か	取ってくれたりしない ですか。
42	〇	取る	くれる	たりする	〇	ます	か	取ってくれたりします か。
43	ちょっと	取る	くれる	〇	ん	ます	か	ちょっと取ってくれませ んか。
44	ちょっと	取る	くれる	〇	ない	です	か	ちょっと取ってくれない ですか。
45	ちょっと	取る	くれる	〇	〇	ます	か	ちょっと取ってくれます か。
46	〇	取る	くれる	〇	ん	ます	か	取ってくれませんか。

47	∅	取る	くれる	∅	ない	です	か	取ってくれないですか。
48	∅	取る	くれる	∅	∅	ます	か	取ってくれますか。
49	ちょっと	取る	もらう	たりする	ない	∅	∅	ちょっと取ってもらえたりしない。
50	ちょっと	取る	もらう	たりする	∅	∅	∅	ちょっと取ってもらえたりする。
51	ちょっと	取る	もらう	∅	ない	∅	∅	ちょっと取ってもらえない。
52	ちょっと	取る	もらう	∅	∅	∅	∅	ちょっと取ってもらえる。
53	∅	取る	もらう	たりする	ない	∅	∅	取ってもらえたりしない。
54	∅	取る	もらう	たりする	∅	∅	∅	取ってもらえたりする。
55	∅	取る	もらう	∅	ない	∅	∅	取ってもらえない。
56	∅	取る	もらう	∅	∅	∅	∅	取ってもらえる。
57	ちょっと	取る	くれる	たりする	ない	∅	∅	ちょっと取ってくれたりしない。
58	ちょっと	取る	くれる	たりする	∅	∅	∅	ちょっと取ってくれたりする。
59	ちょっと	取る	くれる	∅	ない	∅	∅	ちょっと取ってくれない。
60	ちょっと	取る	くれる	∅	∅	∅	∅	ちょっと取ってくれる。
61	∅	取る	くれる	たりする	ない	∅	∅	取ってくれたりしない。
62	∅	取る	くれる	たりする	∅	∅	∅	取ってくれたりする。
63	∅	取る	くれる	∅	ない	∅	∅	取ってくれない。
64	∅	取る	くれる	∅	∅	∅	∅	取ってくれる。

最も心的距離が遠い相手に対しては「前置き・理由の付属」「もらう」「婉曲的依頼表現」「否定型（ません）」の全ての要素が合わさった敬体の表現が使用され、その後相手との心的距離が近づいていくにつれて、①「ませんか」→「ないですか」への変化、②「否定型」→「肯定型」への変化、③「前置き・理由」の欠落、④「婉曲的」→「直接的」への変化、⑤「もらう」→「くれる」への変化、⑥「くださる/いただく」→「くれる/もらう」⑦敬体→常体という順番で表現が変化していくと考えられる。対極の、最も心的距離が近い相手に対しては「くれる」「直接的依頼表現」「肯定型」の常体の表現が使用され、相手との心的距離が遠ざかっていくにつれて、①「肯定型」→「否定型」、②「直接的」→「婉曲的」、③「前置き・理由」の付属、④「くれる」→「もらう」、⑤常体→敬体という順番で表現が変化していくと考えられる。心的距離が遠くなるにつれて相手への配慮を意識した表現へと移行するため、より冗長で遠回しな表現へと変化していくことが構造的に整理できた。

○心的距離について

続いて、「肯定型/否定型」「直接的依頼表現/婉曲的依頼表現」「前置き・理由の付属の有無」の調査の中でイレギュラーな傾向を示した「後輩」と「先生」について心的距離の側面から考察していく。

まずここまでの結果を整理する。

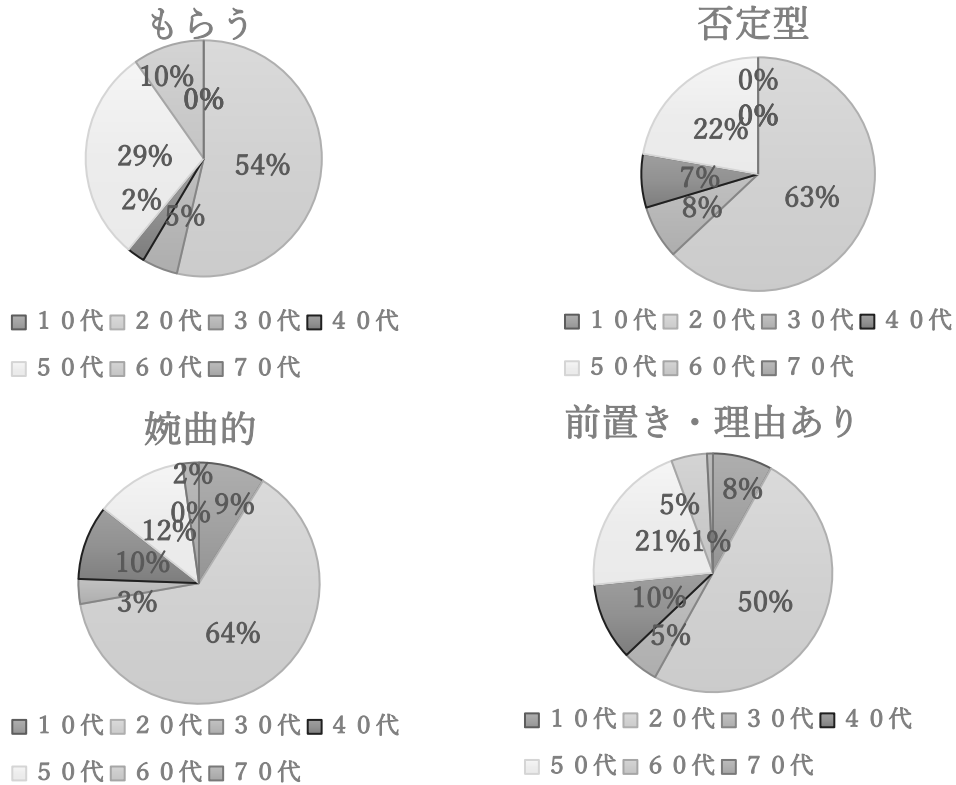
- ・「肯定型/否定型」の使い分けに関して、「肯定型」は心的距離が近い相手に使用されやすい傾向が見られたが、心的距離が近い相手として設定した「家族」や「友達」よりも「後輩」の方が「肯定型」の使用率が高くなっている。また、2番目に心的距離が遠いと仮定した「先生」の割合比率が「家族」と同数値になっている。「否定型」は心的距離が遠くなるほど使用されやすいはずなので、割合が「家族→初対面の人」と徐々に高くなるはずなのに、「後輩」と「先生」ではその傾向がみられなかった。
- ・「直接的依頼表現/婉曲的依頼表現」の使い分けに関して、「家族→初対面の人」にかけて「婉曲的表現」の使用比率が徐々に高くなっているのに反して、「先生」は「後輩」と同数値になっており逆行している。
- ・「前置き・理由の付属」に関して、「後輩」の値が、心的距離が遠いはずの「先輩」「初対面の人」と同じ傾向を示し、「先生」は「友達」と類似した傾向を示している。

これらのイレギュラーな結果から、「後輩」との心的距離の捉え方には個人差が大きく、「先生」への心的距離は筆者の予想よりも近いのではないかということが考えられる。前提として、本調査で設定した「心的距離」は捉え方に個人差が生じることや、年代により相手との距離感の捉え方に差が生じることが懸念されることであるため大まかな傾向を掴むことしかできない調査方法になってしまったことは本調査における反省点として挙げられる。だが、今回の結果から、その中でも特に「後輩」は心的距離の捉え方に揺れが生じやすい相手であることが予測される。また、「先生」は社会的な立場から考えると大抵の場合は「目上の人」であるため配慮が必要となり、それほど心的距離が近くないと感じる相手なのではないかと考えていたが、実際の調査では「家族」や「友達」と同じ割合を示す場合もあり意外と心的距離が近いと感じている人が多いのではないかという意外な結果が明らかとなった。

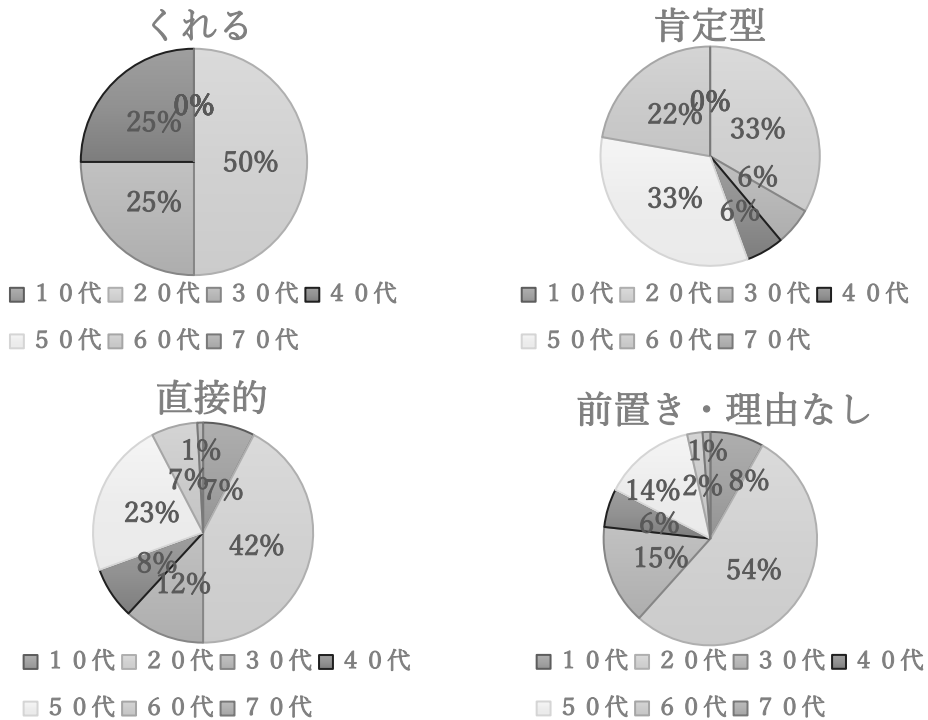
そこで、ここでは、「先生」に対する依頼表現の使い分けを世代別に分析することで、「先生」との心的距離の捉え方に世代差が生じていないか確認する。現代と一昔前を比較すると、一昔前の方が「先生」からより厳しく指導されていたため、「先生」との心的距離を遠く感じやすい人が多かったのではないかと考えたためである。もしも「先生」に対する距離感に世代差が存在するのであれば、上記のような結果の揺れが生じたことにも納得がいくのではないだろうか。

それぞれの視点別に、「先生」への依頼表現の使用比率を、心的距離が遠い相手に使用する表現（「もらう」「否定型」「婉曲的」「前置き・理由あり」）と、心的距離が近い相手に使用する表現（「くれる」「肯定型」「直接的」「前置き・理由なし」）ごとに集計してまとめたものが以下のグラフである。

○「先生」への使用比率の年代別



【図 23】 心的距離が遠い相手に使用されやすい4つの要素



【図 24】 心的距離が近い相手に使用されやすい4つの要素

ここから、全体的な傾向として若い世代の方が「先生」に対して「心的距離が遠い相手に使用する表現」を使用しやすい傾向がみられる。だが、それほど極端に差が表れているとは言い切れず、絶対的な傾向とは言い難いことが分かる。若い世代の方が「先生」との心的距離が近くなっているのではないかと思っていたが、予測に反した結果となった。依頼表現の選択という観点からでは、それほど劇的に「先生」に対する心的距離の感じ方に世代差が生じていないことが分かり、多少は若い世代の方が先生との心的距離を遠いと感じやすい傾向があるものの、年代関係なく全体的に「先生」との距離感が近くなってきていることが分かった。社会の中でどのような関係性に人にどのような距離感を感じるのかということも、時代によって変化するものであり、常に過渡期にあるのかもしれない。

7.2 世代間の差について

○依頼表現の使用の世代間の差

続いて、依頼表現の使用に対する世代間の差として明らかになったことをまとめる。

- ・「くれる」は若年層の使用が、「もらう」は中高年層の使用が多い傾向が若干見られる
- ・「否定型」は若年層の使用が、「肯定型」は中高年層の使用が増加する傾向が見られる
- ・若年層の方が「婉曲的依頼表現」を使用しやすい傾向が若干見られるがそれほど大きな差ではないため、依頼場面においては「婉曲的依頼表現」が若者特有の表現であるとは言いきれない
- ・「前置き・理由の付属の有無」にはそれほど世代間で差がみられない

全体的な結果として、世代が若くなるにつれて、特に「くれる」と「否定型」を使用しやすい傾向が若干見られたため、ここでは世代差による依頼表現の使用に関して考察を行う。

若い世代に使用されやすい「くれる」「否定型」は、どちらかということの心的距離が近い相手に使用されやすい表現であるため、若い世代の方が周りの人々との心的距離を中高年層よりも「近い」と感じやすくなっているのかもしれないことが考えられる。また、それは同時に、若い世代の方があまり「丁寧」な依頼を行っていないとすることもできるだろう。しかし、「婉曲的依頼表現」は若い世代の方が使用比率が高い事や、「先生」に対する距離感の捉え方にはそれほど世代差が生じていないこと、どれも極端に強い傾向ではないことから、全体的には依頼表現の使用に世代差はあまり関係ないと言わざるを得ず、これらは単なる若者の言葉遣いの問題かもしれないという考察までしか行うことができなかった。

今回の調査では、若年層に使用されやすい表現の傾向を確認することはできたがあまり強い傾向を明らかにすることはできず、考察に根拠を持たせることができない結果となってしまった。これは、本調査において各年代の人数を揃えなかったため細かい結果が分からなかったこと、相手との心的距離の捉え方に関する質問を行わなかったため年代ごとに心的距離の捉え方に差が生じているのかもしれないことが要因として考えられる。

○婉曲的依頼表現に対する印象の世代間の差

続いて、〈調査2〉の印象調査の世代差について考察していく。調査から、「婉曲的依頼表現」に対して「ポジティブ」だと感じている人の割合は、若年層の方が高い傾向にあることが分かった。しかし、「婉曲的依頼表現」に対して「ネガティブ」だと回答している人の割合も若年層の方が高い傾向がみられるため、若者の「婉曲的依頼表現」に対する印象を「ポジティブだ」「ネガティブだ」とどちらかに傾向づけることは困難である。「直接的依頼表現」についても同様のことがいえる。

「婉曲的依頼表現」に関しては、先行研究で若者の間で使用が増加傾向にあったり使用に対する許容度が高かったりするのではないかということが指摘されていたため、若い世代の方が「ポジティブ」だと感じる人が多いのではないかと予測していたが、使用頻度・使用への印象共に世代間による差違が表れにくいのだということが今回の調査で新たに明らかとなった。「婉曲的依頼表現」の使用や印象は、世代差よりも個人差の方が大きいのではないかということが考えられ、先行研究で言われていることと逆行する結果となったため、「婉曲的依頼表現」に関しては今後もより詳細な調査を行っていく必要があるだろう。

7.3 婉曲的依頼表現について

○婉曲的依頼表現の使用意図と印象の矛盾

「婉曲的依頼表現」は、使用の傾向として〈調査1〉から、心的距離が遠くなるにつれて増加傾向にあることが明らかとなった。一方で〈調査2〉からは、心的距離が遠く人間関係が構築されていない相手から使用されるとネガティブな印象を抱きやすい傾向があることも明らかとなった。これらの結果から、「話し手は相手のことを配慮しようと敢えて遠回りで冗長な表現をとろうとするが、聞き手側はその配慮のための表現に対して不快感を覚えるという、矛盾した意図の伝わり方をしている」ことが言える。

この結果を踏まえると、心的距離が遠い相手に対しても遠回しな表現をするのではなく、直接依頼したいことを伝えた方が相手には「丁寧」だと感じられやすいことが考えられる。

反対に、友達からは「婉曲的依頼表現」を使用されるとポジティブな印象を受ける人が圧倒的に多くっており、心を許せる相手には直接的ではなく婉曲的な表現で依頼をする方がより「丁寧」だと感じられやすいことが分かる。

私たちは、普段の生活で無意識的に、配慮が必要な相手に対するほど「直接的に依頼すると高圧的になるのではないか、配慮が足りないのではないか」と考えることが多く婉曲的な表現を使用しようとする傾向がある。実際に調査でも使用傾向としてはそのような結果となった。しかし、その考えばかりが正解だとは限らないことが確認でき、無意識的な感覚を疑う必要があることが新たな気付きとして発見された。

○婉曲的依頼表現に対する印象について

婉曲的依頼表現に対しては、「失礼だ」というネガティブな印象を抱く人がもう少し多い

のではないかと予想していたが、「婉曲的依頼表現」を使用することで「心的距離が近い」というポジティブ・ポライトネスに該当する印象を抱く人も多数いた。ここから、「婉曲的依頼表現」の使用が必ずしも不快な印象を与えるわけではないことが分かったため、ここでは、「婉曲的依頼表現」について考察を行う。

本調査では、「婉曲的依頼表現」の中に「～してもらってもいい」「～してもらえたりする」というように言葉を組み合わせることで遠回しに表現する場合と、「寒くない?」「重たいなあ」というように完全に遠回しに表現する場合の2パターンを設定したが、特に前者の言葉を組み合わせる婉曲的な依頼表現に対しては「丁寧だ」「距離が近い」と回答する人の割合が世代問わず高かった。ここから、依頼の内容を述べた上で言葉を組み合わせる遠回しに述べる表現を用いた場合には相手に良い印象を与えやすく、反対に、依頼の内容を含意する別の言葉を用いて依頼する場合には相手に不快感を与えやすいのではないかということが考えられる。このことは、「依頼」だけにとどまらず、他の言語活動の場面でも同様のことが言えるのではないだろうか。「含意していることを汲み取ってね」という意識が介在していることが見下されている感覚を与えるため不快感を覚えやすくなるのではないかということができ、「婉曲的依頼表現」を越えた、対人コミュニケーション全般の問題がここに存在しているかもしれないことが分かった。

7.4 「依頼」という行為について

本調査では、話し手と聞き手の心的距離により依頼表現の使用がどのように変わるのか、世代間に違いがあるのかどうかということを明らかにするために、主に「もらう/くれる」「肯定型/否定型」「直接的依頼表現/婉曲的依頼表現」「前置き・理由の付属の有無」という視点から調査を行った。そして分析を行った結果として明らかになったことを【表 14】にまとめた。しかし、分析を進める中で、特に「婉曲的依頼表現」に関して、使用する側は心的距離が遠い相手に配慮する気持ちから使用することが多い一方で、使用される側は心的距離が遠い相手から使用されると不快に感じやすいという意識の乖離が明らかになってきた。他にも、先行研究で言われている結果が完全に表れなかったり、傾向が一貫していなかったりする結果も度々表れた。

これらのこと全てを踏まえると、依頼場面に関しては、表現と依頼場面が完全に一体化しているとは言えないことが考えられるのではないだろうか。即ち、多少の表現の使い分けの意識はあるものの、実際の依頼の場面ではそこまで表現に強く意識をしていないのではないかとということである。どのような表現を使用したとしても依頼という行為自体相手に負担のある行為を頼むことに変わりはなく、心的距離との関係性から考えてみると、いっそのこと「あなたとの距離は近いです」という親近感をもった言い方をされた方が依頼を遂行する心持が軽くなるのではないかと考えられる。本調査で、心的距離が遠い相手には配慮した遠回りの表現を使用する傾向があることが分かったが、それはむしろ虚礼になっているといえるのではないだろうか。そのために、心的距離が遠い相手から婉曲的な

依頼表現を使用されると不快に感じる人が多いのではないかと考えた。

本調査で明らかにした【表 14】のような細かな使い分けは、あくまで全体的な傾向でありそれほど明確に使い分けられているわけではないことが見えてきた。このことは、「依頼」という行為が内包している特殊性ではないだろうか。

8. 今後の課題

今回の調査では、依頼表現の使用の実態と印象を調査する方法として Forms でのアンケートを採用した。しかし高村の論文でも触れられているように、コミュニケーションには文字だけでなくイントネーションや身振りなどのノンバーバルコミュニケーションも含まれるため、様々な観点から調査を行わないと正確な分析を行うことはできないだろう。質問者が意図した場面設定を回答者に齟齬なく伝えたり、反対に回答者の回答を正しく受け取ったりするためにも、対面での聞き取り調査も実施する必要があった。今回、回答数を可能な限り増やすためにネット上での調査になってしまったことが反省点として挙げられる。また、対面でコミュニケーションをとる場面に限定した調査を行ったが、LINE やメールなど非対面の際のコミュニケーションではどのような結果になるかに関しても今後の調査で明らかにする必要があるだろう。

加えて、今回は心的距離のみに焦点を絞って調査を行ったが、心的距離は人により捉え方が変わってしまうことは最初から懸念されており本調査では大まかな傾向しか明らかにできなかったことも反省点として挙げられる。世代ごとに相手との距離の捉え方に差が生じているかもしれない、そこを把握する質問を行わなかったため世代間の傾向に対する考察を深く行うことができなくなってしまった。人と人の関係性には親疎だけでなく上下も存在しているため、今回の調査ではあくまで一つの観点からの傾向しか明らかにできなかった。今回、各年代の人数を揃えなかったことや、相手との心的距離の捉え方に関する質問を行わなかったことが世代間による表現の使い分けの考察を根拠をもって行えなかった要因であるため、質問項目の精査も今後の課題として挙げられる。また、今回は時間の都合上、性差に焦点を当てた分析を行うことができなかったが、コミュニケーションには心的距離の他に性差が与える影響も大きいことが言われているため、性差から見た依頼表現の使い分けにも少しは触れる必要があった。

さらに、本調査で焦点を当てた「婉曲的依頼表現」には複数の種類があり、一概に「婉曲的依頼表現」と括れないことも分かった。本研究では「婉曲的依頼表現」と一括して分析を行ってしまったが、「婉曲的依頼表現」も分類して分析する必要があった。今回は「直接的依頼表現」と「婉曲的依頼表現」の比較を調査したが、「婉曲的依頼表現」だけに着目して調査することでより詳しいことを明らかにできるのではないだろうか。

最後に、今回は「どのような印象を受けるか」ということを調査したが、「どのような表現だと最も依頼を遂行しようという気持ちになるのか」ということを追加で調査することで、もっと実用的な部分を明らかにできるのではないだろうか。

9. おわりに

本研究では、「日本語依頼表現の使用の実態」というテーマで、心的距離と依頼表現の関連についてアンケート調査を基に考察を行った。

調査の結果から、心的距離が遠くなるほど、相手への配慮を表すために「もらう」「否定型」「婉曲的依頼表現」「前置き・理由の付属」が増加する傾向があることが明らかとなった。これは、先行研究で高村が明らかにしている、依頼の負担度が大きくなるにつれて増加する表現と同様のものであったため、心的距離も依頼表現の選択に大きな影響を与えていることが確認された。また、年代が若くなるほど「くれる」と「否定型」の使用が増加傾向にあることが明らかとなった。これらはどちらかというとき心的距離が近い相手に使用されやすい表現であるため、若年層の方が周りの人々と距離が近いと感じやすくなっているとも考えられる。しかし、調査の中で一定の傾向を示さず例外となってしまった「先生」に対する距離感の世代差を調べると、それほど年代による大きな違いがあるようには思われなかった。そのため、単なる言葉遣いの問題なのかもしれないという考察に至ったが今後さらなる調査が必要である。

〈調査2〉では「直接的依頼表現」と「婉曲的依頼表現」に対する印象について調査を行ったが、「直接的依頼表現」に対しては世代や相手を問わずポジティブな印象を受ける人が多かった。一方で、「婉曲的依頼表現」に対しては、「友達」から使用された場合に最もポジティブな印象を受ける人が多く、「初対面の人」から使用されるとネガティブな印象を受けやすいことが明らかとなった。特に世代差は見られず、先行研究などでは、若い世代の方が婉曲的表現の許容度が高いのではないかと言われていたが、今回の調査においてはあまりその傾向はみられなかった。また、〈調査1〉で、心的距離が遠い人に対するほど婉曲的依頼表現を使用しやすい傾向がみられたが、使用された側は心的距離が遠い相手から婉曲的に依頼されるとあまり良い印象を抱かないことが明らかとなり、「婉曲的依頼表現」には使い手と受け手の意識の矛盾が存在していることが新たに発見された。

依頼という行為そのものが一定の負担を強いるものであるため、心的距離に関わらず親しみをもって依頼される方が虚礼に感じず比較的好印象を抱きやすいのではないかとということが考察された。また、本調査で明らかになったような細かい表現の分類が必ずしも意識されて使い分けられているわけではないかもしれないという「依頼」ならではの表現の特有性の一端を垣間見ることができた。

加えて、「婉曲的依頼表現」の中に2種類の表現がありそれぞれの表現に対する印象に差があったことから、コミュニケーションの中では「含意していることを汲み取ってね」という意識を相手に感じさせることに問題があるのではないかという対人コミュニケーション全般に関する問題を明らかにすることができた。

今後、条件や表現を変えて「婉曲的依頼表現」に関する研究を行ったり、心的距離に関して細かく条件設定を行って依頼表現以外の表現についても調査を行ったりすることで、さらに詳細なことが明らかになっていくのではないだろうか。卒業論文として執筆した本

研究が少しでも今後の言語活動研究に役立ち、発展していくことを期待する。

参考文献

- 宇佐美まゆみ (2001) 「談話のポライトネス—ポライトネスの談話理論構想」 国立国語研究所編『談話のポライトネス』 国立国語研究所
- 尾崎喜光 (2015) 「「～てもらっていい？」の普及に関する研究」『清心語文』 pp.138-115
- 蒲谷宏 (2007) 「「丁寧さ」の原理に基づく「許可求め型表現」に関する考察」『国語学研究と資料』 pp.37-46
- 川口義一・蒲谷宏・坂本恵 (2002) 「「敬語表現」と「ポライトネス」：日本語研究の立場から（＜特集＞言語の対人関係機能と敬語）」『社会言語科学』 pp.21-27
- 金昌男 (2000) 「日本語母語話者における依頼表現の使用実態について：「～てくれる/くださる」「～てもらう/いただく」を中心に」『千葉大学ユーラシア言語文化論集』 pp.30-43
- 熊井浩子 (2012) 「行為要求表現について—V テモラッテイイカを中心に—」『静岡大学国際交流センター紀要』 pp.1-19
- 佐久川利奈 (2022) 「日本語の依頼表現に関する一考察—「てもらっていいですか」を中心に」『創価大学大学院紀要』 pp.161-184
- 清水崇文 (2013) 「中上級学習者のためのブラッシュアップ日本語会話：みがけ！コミュニケーションスキル：許可を求める/依頼する/謝罪する/誘う/申し出をする/助言する/不満を伝える/ほめる」『スリーエーネットワーク』
- 高村英里奈 (2014) 「依頼表現について—文末表現に焦点を当てて—」『東京女子大学言語文化研究』 pp.39-51
- 滝浦真人 (2005) 『日本の敬語論—ポライトネス理論からの再検討』 大修館書店
- 滝浦真人 (2008) 「ポライトネスから見た敬語、敬語から見たポライトネス：その語用論的相対性をめぐって（＜特集＞敬語研究のフロンティア）」『社会言語科学』 pp.23-38
- 田中晃 (2010) 「婉曲化進む話し言葉」『成蹊国文』 pp.67-73
- 辻岡咲子 (2018) 「日韓における行為要求表現の運用に関する対照研究」『國文學』 ※関西大学 pp.460-446
- 辻岡咲子 (2019) 「依頼場面における許可求め表現の使用の動態」『國文學』 ※関西大学 pp.468-455
- 辻岡咲子 (2020) 「疎の関係の人物に使用される依頼場面での許可求め表現に関する調査」『國文學』 ※関西大学 pp.548-534
- 辻岡咲子 (2021) 「モラウ系授受動詞を用いた依頼表現の比較：国会会議録の資料から」『國文學』 ※関西大学 pp.246-233
- 福岡寛也 (2014) 「心的距離の違いと使用語彙に関する研究」『愛知教育大学大学院国語研究』 pp.73-88

- ベネロピ・ブラウン、スティーブン・C・レヴィンソン、田中典子監訳、齊藤早智子/津留
崎毅/鶴田庸子/日野壽憲/山下早代子訳 (2011)『ポライトネス 言語使用における、
ある普遍現象』株式会社研究社
- 政井美穂 (2016)「返答のタイプによる「てもらってもいいか」の用法の分類」『実践國文
學』 pp.1-16
- 南不二男 (1974)『現代日本語の構造』大修館書店
- 南不二男 (1993)『現代日本語文法の輪郭』大修館書店
- 森山由紀子 (2010)「現代日本語の敬語の機能とポライトネス」『同志社女子大学日本語日
本文学』 pp.1-19
- 山岡政紀 (2005)「「書評」山田敏弘著 日本語のベネファクティブー「てやる」「てくれる」
「てもらう」の文法一」『日本語の研究』 pp.201-207
- 吉岡泰夫 (2004)「コミュニケーション意識と敬語行動に見るポライトネスの地域差・世
代差：首都圏と大阪のネイティブ話者比較 (<特集>方言)」『社会言語科学』 pp.92-
104

参考資料

・平成 19 年度「国語に関する世論調査」の結果について-文化庁

https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/h19/

(最終閲覧日：2025/1/14)

10. 追加資料「調査項目」

10.1 「予備調査」

〈回答者に関する質問〉

(回答は任意です)

①性別「 」 ②年齢「 」 ③出身地「 」

〈依頼表現に関する質問〉

I ここでは、何かを依頼する際に、あなた自身がそれぞれの関係性の相手に対してどのように依頼するのかお聞きします。

設問1～6まで、いろいろな依頼場面を想定してあります。それぞれの場面において、以下の関係性の相手(家族・友達・後輩・先輩・ゼミの先生・上司・初対面の人)に対して依頼を行う場面をイメージし、どのように依頼するか想像して記述してください。

冒頭でも述べた通りどの質問にも正解はないので、普段の生活の中であなたが使うであろう表現を自由に記述してください。

誰に対して依頼を行う場面なのか注意して回答してください。

設問1：メモを取りたいが筆記用具を持っていなかったため、ペンを貸してほしいと依頼する場面

設問2：たくさん荷物を持っているので、少し荷物を持ってほしいと依頼する場面

設問3：エレベーターに乗った際に、近くにいる相手に階数ボタンを押してほしいと依頼する場面

①家族に対して 「_____」

②友達に対して 「_____」

③後輩に対して 「_____」

④先輩に対して 「_____」

⑤ゼミの先生に対して 「_____」

⑥初対面の人に対して 「_____」

設問4：同じバスに乗車中、暑いので窓を開けてほしいと依頼する場面

設問5：アルバイト中に、自分の仕事で手一杯なため仕事を依頼する場面

設問6：用事が入ってしまったため、アルバイトのシフト交代を依頼する場面

①後輩に対して 「_____」

②親しい後輩に対して 「_____」

③先輩に対して 「_____」

④親しい先輩に対して 「_____」

⑤上司に対して 「_____」

⑥親しい上司に対して 「_____」

IIここでは、あなたが他人から何かを依頼される時に、相手にどのように依頼されるとどのように感じるのかという印象をお聞きします。

以下の関係性の相手（家族、友達、親しい友達、先輩、親しい先輩、後輩、親しい後輩、先生、親しい先生）から「物を貸してほしい」と依頼される場面を想像し、以下の表現を使用した際にどのように感じるか、8つの（選択肢）の中から選んでお答えください。複数回答可です。

冒頭でも述べたように、正解はないのであなたが感じたことをそのまま選択してください。誰から依頼される場面なのか注意して回答してください。

（選択肢）

（ア）「相手に理解されている」（イ）「上から目線」（ウ）「距離が近い」

（エ）「気遣ってくれている」（オ）「失礼な感じがする」（カ）「丁寧な感じがする」

（キ）「距離が遠い」（ク）「馬鹿にされている」（ケ）その他（自由記述）

設問1：家族から「物を貸してほしい」と依頼される場面

設問2：友達から「物を貸してほしい」と依頼される場面

設問3：親しい友達から「物を貸してほしい」と依頼される場面

設問4：先輩から「物を貸してほしい」と依頼される場面

設問5：親しい先輩から「物を貸してほしい」と依頼される場面

①「これ貸して」と言われる場合「 」

②「これ貸してもらっていい？」と言われる場合「 」

③「これ貸してくれない？」と言われる場合「 」

④「これ貸してもらえる？」と言われる場合「 」

設問6：後輩から「物を貸してほしい」と依頼される場面

設問7：親しい後輩から「物を貸してほしい」と依頼される場面

設問8：先生から「物を貸してほしい」と依頼される場面

設問9：親しい先生から「物を貸してほしい」と依頼される場面

①「これ貸してください」と言われる場合「 」

②「これ貸してもらっていいですか？」と言われる場合「 」

③「これ貸してくれませんか？」と言われる場合「 」

④「これ貸してもらえませんか？」と言われる場合「 」

〈対人関係に関する質問〉

ここでは、あなたが普段の生活の中で他人とコミュニケーションをとる際の意識についてお聞きします。

①普段の生活の中でコミュニケーションをとる際、「自分と相手の社会的な立場」（立場が下の後輩、立場が上の先輩、など）を意識して言葉遣いを変えていますか

はい

いいえ

どちらでもない

②普段の生活の中でコミュニケーションをとる際、相手の立場は同じであっても（友達・後輩などの社会的な立場）、「自分と相手の関係性」によって言葉遣いを変えていますか

はい

いいえ

どちらでもない

（予備調査のみの質問）

①質問の意図が分かりにくい部分がありましたか

②質問数が多く、回答の負担が大きかったですか

はい

いいえ

③設定場面を想像しにくい設問がありましたか

④その他、何か感じたことなどがありましたらご自由に記述をお願いします

10.2 「本調査」

〈回答者に関する質問〉

(回答は任意です)

①性別

女性 男性 その他

②年代

10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代 90代 それ以上

〈依頼表現に関する質問〉

I ここでは、何かを依頼する際に、あなた自身がそれぞれの関係性の相手に対してどのように依頼するのかお聞きします。

設問1～6まで、いろいろな依頼場面を想定してあります。それぞれの場面において、以下の関係性の相手（家族・友達・後輩/部下・先輩/上司・先生・初対面の人）に対して依頼を行う場面をイメージし、どのように依頼するか想像して記述してください。

冒頭でも述べた通りどの質問にも正解はないので、普段の生活の中であなたが使うであろう表現を自由に記述してください。依頼場面に遭遇したことがない場合や、具体的にイメージできない場合は想像で回答していただいて構いませんし空白でも構いません。

「誰」に対してどんな依頼を行う場面なのか注意して回答してください。

(例)「ちょっとあれ取ってもらっていい?」、「すみません、手がいっぱいなので少し荷物をもっていただけますか?」、「なんか寒くない?」・・・など

設問1 「家族」に対して

- ①「家族」に対して、物を取ってほしいと依頼する場面「_____」
- ②「家族」に対して、たくさん荷物を持っているので、少し荷物を持ってほしいと依頼する場面「_____」
- ③「家族」に対して、少し寒いからエアコンをつけてほしいと依頼する場面「_____」

設問2 「友達」に対して

- ①「友達」に対して、物を取ってほしいと依頼する場面「_____」
- ②「友達」に対して、たくさん荷物を持っているので、少し荷物を持ってほしいと依頼する場面「_____」
- ③「友達」に対して、暑いから窓を開けてほしいと依頼する場面「_____」

設問3 「後輩（部下）」に対して

- ①「後輩（部下）」に対して、手一杯なためアルバイト（仕事）中に仕事を手伝ってほしいと依頼する場面「_____」
- ②「後輩（部下）」に対して、筆記用具を持っていないのでペンを貸してほしいと依頼する場面「_____」
- ③「後輩（部下）」に対して、たくさん荷物を持っているので少し荷物を持ってほしいと依頼する場面「_____」

設問4 「先輩（上司）」に対して

- ①「先輩（上司）」に対して、手一杯なためアルバイト（仕事）中に仕事を手伝ってほしいと依頼する場面「_____」
- ②「先輩（上司）」に対して、筆記用具を持っていないのでペンを貸してほしいと依頼する場面「_____」
- ③「先輩（上司）」に対して、たくさん荷物を持っているので少し荷物を持ってほしいと依頼する場面「_____」

設問5 「先生」に対して

- ①「先生」に対して、論文の添削を依頼する場面「_____」
- ②「先生」に対して、筆記用具を持っていないのでペンを貸してほしいと依頼する場面「_____」
- ③「先生」に対して、少し寒いので部屋の窓を閉めてほしいと依頼する場面「_____」

設問6 「初対面の人」に対して

- ①「初対面の人」に対して、道に迷ったので道を教えてほしいと依頼する場面「_____」
- ②「初対面の人」に対して、寒いので窓を閉めてほしいと依頼する場面「_____」
- ③「初対面の人」に対して、写真を撮ってほしいと依頼する場面「_____」

IIここでは、あなたが他人から何かを依頼される時に、相手にどのように依頼されるとどのように感じるのかという印象をお聞きします。

以下の関係性の相手（家族、友達、後輩/部下、先輩/上司、先生、初対面の人）から依頼される場面を想像し、以下の表現を使用された際にどのように感じるか、7つの（選択肢）の中から選んでお答えください。複数回答可です。

冒頭でも述べたように、正解はないのであなたが感じたことをそのまま選択してください。「誰」からどんな依頼をされる場面なのか注意して回答してください。

- (ア) 心理的な距離が近い「 」
- (イ) 遠回しな感じがする「 」
- (ウ) 失礼な感じがする「 」
- (エ) 丁寧な感じがする「 」
- (オ) 心理的な距離が遠い「 」
- (カ) 特に何も感じない「 」
- (キ) その他「_____」

設問1 「家族」から

設問1-1:「家族」から荷物を持ってほしいと依頼される場面

- ①「これ持ってもらえる？」と言われる場合
- ②「これ持ってもらってもいい？」と言われる場合
- ③「この荷物重たいなあ～」と言われる場合

設問1-2:「家族」からペンを貸してほしいと依頼される場面

- ④「ペン貸してくれない？」と言われる場合
- ⑤「ペン貸してくれたりしない？」と言われる場合

設問2 「友達」から

設問2-1:「友達」からペンを貸してほしいと依頼される場面

- ①「ペン貸してもらえる？」と言われる場合
- ②「ペン貸してもらってもいい？」と言われる場合
- ③「それ取ってくれない？」と言われる場合

設問2-2:「友達」から物を取ってほしいと依頼される場面

- ④「それ取ってくれたりしない？」と言われる場合
- ⑤「ごめん、ちょっとあれ手が届かんわ～」と言われる場合

設問3 「先輩（上司）」から

設問3-1：「先輩（上司）」から荷物を持ってほしいと依頼される場面

- ①「これ持ってもらえる？」と言われる場合
- ②「これ持ってもらってもいい？」と言われる場合
- ③「この荷物重たいな～」と言われる場合

設問3-2：「先輩（上司）」から物を貸してほしいと依頼される場面

- ④「これ貸してくれない？」と言われる場合
- ⑤「これ貸してくれたりしない？」と言われる場合

設問4 「後輩（部下）」から

設問4-1：「後輩（部下）」から物を貸してほしいと依頼される場面

- ①「これ貸してもらえますか？」と言われる場合
- ②「これ貸してもらってもいいですか？」と言われる場合

設問4-2：「後輩（部下）」から荷物を持ってほしいと依頼される場面

- ③「これ持ってくれませんか？」と言われる場合
- ④「これ持ってくれたりしませんか？」と言われる場合
- ⑤「この荷物重たいな～」と言われる場合

設問5 「先生」から

設問5-1：「先生」から荷物を持ってほしいと依頼される場面

- ①「これ持ってもらえますか？」と言われる場合
- ②「これ持ってもらってもいいですか？」と言われる場合
- ③「この荷物重たいな～」と言われる場合

設問5-2：「先生」からペンを貸してほしいと依頼される場面

- ④「ペン貸してくれませんか？」と言われる場合
- ⑤「ペン貸してくれたりしませんか？」と言われる場合

設問6 「初対面の人」から

設問6-1：「初対面の人」からペンを貸してほしいと依頼される場面

- ①「ペン貸してもらえませんか？」と言われる場合
- ②「ペン貸してもらってもいいですか？」と言われる場合
- ③「ペン忘れてしまったな～」と言われる場合

設問6-2：「初対面の人」から写真を撮ってほしいと依頼される場面

- ④「写真撮ってくれませんか？」と言われる場合
- ⑤「写真を撮ってくれたりしませんか？」と言われる場合

〈対人関係に関する質問〉

ここでは、あなたが普段の生活の中で他人とコミュニケーションをとる際の意識についてお聞きします。

①普段の生活の中でコミュニケーションをとる際、「自分と相手の社会的な立場」（立場が下の後輩、立場が上の先輩、など）を意識して言葉遣いを変えていますか

はい「 」 いいえ「 」 どちらでもない「 」

②普段の生活の中でコミュニケーションをとる際、相手の立場（友達・後輩などの社会的な立場）は同じであっても、「自分と相手の関係性」によって言葉遣いを変えていますか

はい「 」 いいえ「 」 どちらでもない「 」